

理事會議案第1号  
評議員會議案第1号

平成30年度

事業報告書

社会福祉法人牧之原市社会福祉協議会

## (目 次)

概 要	P 1
基本目標Ⅰ 安心して暮らすことができるまちづくり	
施策1 相談窓口の充実	P 1
施策2 災害時要援護者（避難行動要支援者）対策の充実	P 3
施策3 福祉の担い手の確保・活動の充実	P 4
施策4 各種福祉サービスの利用支援	P 5
施策5 情報提供の充実	P 6
施策6 生活環境の整備の充実	P 6
施策7 次世代への支援の充実	P 8
基本目標Ⅱ 活動の輪を広げるまちづくり	
施策1 地域や学校における福祉教育の推進	P 9
施策2 ボランティア・地域活動等の参加促進	P 9
施策3 地域資源の確保・活動推進	P 12
基本目標Ⅲ 助け合い・支え合いの仕組みづくり	
施策1 市民参加型の小地域福祉活動の推進・支援	P 16
施策2 生活困窮世帯等への支援ネットワーク体制の強化	P 17
施策3 地域包括ケアシステムの推進と福祉の連携と協働の強化	P 18
施策4 社会福祉協議会への活動支援・組織強化	P 23
その他 福祉団体等の支援	P 28
各事業所等	
陽だまり	P 29
相良デイサービスセンター	P 31
相良ホームヘルプサービス事業所	P 34
榛原ホームヘルプサービス事業所	P 37
ケアプランセンター	P 40
地域包括支援センターさがら	P 43
生活支援センターつばさ	P 46
生きがいデイあしたか（受託事業・センターは指定管理施設）	P 49
相良総合センター管理業務事業	P 52

## 【1】概況

第2次地域福祉活動計画の最終年度が修了した。この5年間は、法人制度改正等社協にとって大きな変革の時期であった。事業の見直しを行い、他で出来ない横断的な相談や地域づくりの基本となる事業展開を実施した。今後も、行政等関係機関と協力し「ふれあいを大切にした生涯安心して暮らすことのできるまちづくり」から第3次活動計画の基本理念である「市民一人ひとりと地域が創る幸せあふれるまち」の実現に向け事業を推進していく。

生活困窮者の対応については、高齢化や非正規雇用の増加等、社会構造の変化により、社協の取り組む事業は年々重要性が増している。この事業も4年目を迎え、民生委員児童委員や市の関連部署と連携を図り、市民に密着した相談を行ってきたが、生活困窮者の増加は本市においても例外ではなく、行政の生活保護担当と連携するケースが年々増えている。

地域包括ケアシステムの構築における生活支援の体制づくりとしては、高齢者のちょっとした困りごとをお手伝いする“サポーター派遣事業「あるたす」”の実施や、仕組みづくりを目的とした地域の困りごとを検討する場である「地域支え合い活動協議体」が実施され、活発な意見交換から新たな活動が生まれるなど、地域住民を主体とした取り組みが展開され、居場所など助け合いの仕組みづくりが少しずつ浸透してきている。また、地域の活動を取りまとめた「地域支え合いガイドブック」を作成し、配布するなど、市民の意識啓発にも務めた。

在宅福祉事業においては、平成30年4月から「社協陽だまり」として新たにデイサービス事業をスタートすることができた。デイサービス事業の運営は厳しい状況下にあるが、新施設への期待もあり、利用者増となってきた。各事業所ごとの特色を出せるよう職員全員が工夫していくことで、安定した経営ができるよう引き続き改善を進めていく。

今後も地域福祉を推進する社会福祉法人として、役職員が一丸となって住民ニーズに基づいた事業を展開していく。

## 【2】主要事業

### 基本目標1 安心して暮らすことのできるまちづくり

#### 施策1 相談窓口の充実

悩みごとや心配ごとを持つ方が気軽に相談できる窓口を下記のように設置し、総合相談及び援助活動を行った。

種類	開設日	場所	相談活動の内容
福祉総合相談	月～金曜日 (8:15～17:00)	相良総合センターいへら	社会福祉協議会の職員が、様々な福祉の相談(ボランティア・介護・サロン活動・生活困窮など)に電話や訪問などにより対応した。
	月～金曜日 (8:15～17:00)	老人福祉センター	
心配ごと相談	毎月第2水曜日 (9:00～11:30)	市民相談センター	市民からの多様な相談に対応するため、民生委員児童委員と司法書士が相談に対応した。 ●主な内容 財産、離婚
	毎月第4水曜日 (9:00～11:30)		
	第5水曜日 (9:00～11:30)		
法律相談	毎月第1水曜日 (10:00～15:00)	市民相談センター	市民や他市町からの多様な相談に対応するため、弁護士、人権擁護委員、行政相談員が相談に対応した。 ●主な内容 財産、離婚、人権・法律
	毎月第3水曜日 (10:00～15:00)		

(1)相談窓口の利便性の充実を図り、地域ニーズの把握に努めた。

【福祉総合相談】

相談件数 956件 相談内容 2,293件

受付方法		電話	来所	訪問	会議			計	
		296	222	402	36			956	
日本人	相談者	一般	二次予防	要支援者	要介護者	障害者	その他		
	高齢者	165	27	2	21	7	0	222	
	60～64	65		0	16	17	0	98	
	59歳以下	450		14	14	104	4	586	
外国人	相談者	一般	二次予防	要支援者	要介護者	障害者	その他		
	高齢者	2	0	0	1	0	0	3	
	60～64	0		0	0	0	0	0	
	60歳以下	3		0	0	0	0	3	
相談内容		介護問題	医療疾患	施設病院	心理的問題	経済的問題	生活問題	その他	
		72	116	17	294	891	889	14	2,293

【心配ごと・法律相談】

相談件数 228件

開設日数及び延数	相談事項と件数																			
	生計	年金	職業・生業	住宅	家族	結婚	離婚	健康・衛生	医療	精神衛生	人権・法律	財産	事故	児童福祉・母子保健	教育・青少年	障がい児者福祉	母子・父子福祉	老人福祉	苦情	その他
(開設日数) 心配 27日 法律 24日																				
(延べ件数) 心配 58件 法律 170件 計 228件																				
心配ごと相談件数	10	0	1	1	5	1	9	0	0	0	2	25	0	0	0	0	0	0	3	1
法律相談件数	13	0	8	2	6	1	29	0	3	0	34	50	7	0	2	0	0	1	9	5
合計	23	0	9	3	11	2	38	0	3	0	36	75	7	0	2	0	0	1	12	6

(2)無料相談の周知を進め、相談体制を整備した。

①ふくしだよりに掲載

2ヶ月に1回全戸配布するふくしだよりのお知らせに、翌月の相談日や会場などを掲載し市民に周知している。

②ホームページの活用

社協ホームページの「困りごとを相談したい方に」に、各種相談内容や会場、日程等を掲載している。また、Eメールでも対応している。

【アドレス】<http://www.makinohara-shakyo.jp>

### (3) 相談員や職員のスキルアップに努めた。

#### ① 相談員について

民生委員児童委員の定例会にて、民生委員のみなさんが相談員として参加している意味や役割を伝えている。

#### ② 外部研修への参加

職員の相談スキル向上のため、県社協が主催する各種制度の研修会や講習会に参加している。

#### ③ 内部研修の実施

成年後見制度や債務整理について、司法書士を招き事例検討を通じて勉強会を2回(6月、8月)に実施した。また、日頃から職員間で情報を共有している。

### ☆ 評価

新規で受ける相談件数については昨年と比べほぼ横ばいであるが、一般の相談者が最も多い。なお、高齢者が絡むケースについては相良地区を中心に包括支援センターと介入することが多く、連携出来ている。

### ☆ 課題

心配ごと相談や法律相談については、権利擁護や生活困窮の問題を抱えた相談も入るため、今年度から心配ごと相談に職員の同席を始めた。ケースによっては、そのまま社協で関わるケースもでてきており、今後法律家の認知が進む中で社協が出口としての相談窓口を担う必要がある。

## 施策2 災害時要援護者(避難行動要支援者)対策の充実

### (1) 行政や県社会福祉協議会、県ボランティア協会など関係機関との災害時ネットワークの充実を図った。

① 災害時ボランティアコーディネーター及び市防災課、社会福祉課、社協等が市の防災対策等についての連絡会を実施した。

【10月17日】・災害ボランティアの宿泊施設・野営場所の確保について  
・県外社協との災害時の連携について等 17名

② 松川町社会福祉協議会(長野県)との災害時相互応援に係る研究情報交換会を実施した。

【9月2日】 松川町災害ボランティアセンター立ち上げ訓練へ参加 8名

### (2) 災害対策マニュアルの定期的な見直しを行い、災害時に備えた。

#### ① 災害対策マニュアル

マニュアルは年度ごと更新し、常に最新の状態としている。また、災害時ボランティアコーディネーターの定例会での意見等も内容に反映させている。

### (3) 障がい者(児)や妊産婦等要援護者への防災対策の検討をした。

#### ① 防災対策マニュアルの作成

避難所向け障がい者災害時の対応マニュアル作成を行っている。

### (4) 災害ボランティアコーディネーターの支援、連携及び育成を図った。

#### ① 災害ボランティアコーディネーターの育成・充実・連携

災害ボランティアコーディネーター養成講座修了者と災害ボランティアに関心がある市内在住者15名が会員となり、相良総合センターい〜らを会場に毎月第1水曜日に定例会、第4水曜日に理事会を開催した。定例会では、災害時のマニュアルの検討や本部運営に関する協議等、理事会では定例会の内容に関する協議等を行った。

## 定例会

- 【4月9日】 牧之原市災害VCO総会 20名
- 【5月15日】 今年度活動計画、定例会の進め方、災害VCマニュアル見直し等 6名
- 【6月6日】 災害VCマニュアル見直し、災害VCO養成講座募集案内について等 7名
- 【7月9日】 災害ボランティアセンター立ち上げ訓練 18名
- 【8月1日】 災害VCマニュアル見直し、防災講座の実施について等 8名
- 【9月5日】 神戸大学生との意見交換会 10名
- 【10月17日】 災害について連絡会(防災監、防災課、社会福祉課、民生委員、社協、災害VCO) 17名
- 【11月7日】 他市町の防災訓練を学ぶ、連絡会の結果報告等 7名
- 【12月5日】 災害VCマニュアル見直し、養成講座の再計画等 6名
- 【1月9日】 防災講座計画、図上訓練について等 8名
- 【2月6日】 災害VCマニュアル見直し、養成講座再計画等 10名
- 【3月5日】 次年度事業計画、予算計画、総会日程検討等 7名

## 理事会

- |            |             |             |
|------------|-------------|-------------|
| 【4月25日】 6名 | 【8月29日】 9名  | 【12月26日】 4名 |
| 【5月30日】 6名 | 【9月27日】 3名  | 【1月30日】 6名  |
| 【6月27日】 4名 | 【10月31日】 4名 | 【2月25日】 5名  |
| 【7月25日】 2名 | 【11月28日】 6名 | 【3月20日】 5名  |

## ②災害ボランティア交流

神戸大学から災害ボランティアサークル「震災救援隊」が牧之原市災害ボランティアコーディネーターとの交流を目的に牧之原市を訪問。1日目は、台風のため中止。2日目には、牧之原市内を視察し、親睦を兼ねた交流会を行った。

【9月4日・5日】神戸大学生・牧之原市災害ボランティアコーディネーター他 10名

## ③災害ボランティアコーディネーター養成講座

ボランティアセンター運営などの運営ボランティアを養成するために、2日間の講座を実施した。

【2月16日・17日】 6名

## ☆評価

牧之原市災害ボランティアコーディネーターの会議に毎月参加し、意見交換することで連携が図られている。また、松川町社協の訓練にも参加し、牧之原市版の災害VC運営マニュアルの見直しを行ったことにより、具体的で最新のマニュアルとなった。災害ボランティアコーディネーター養成講座を実施し、6名が修了することができた。今後、活動を継続してもらえるように働きかけていく。

## ☆課題

牧之原市災害ボランティアコーディネーターへの新規の参加者が少ないため、今後も災害ボランティアコーディネーター養成講座を実施し、会員の確保を目指していく。本年度は、当初予定した9月29日、30日が台風で中止となり、改めて2月16日、17日に開催した。

## 施策3 福祉の担い手の確保・活動の充実

(1)各種ボランティア講座やサロン協力員講習会の開催を継続し、リーダーの育成を進めた。

### ①サロン協力員の育成・充実

サロン協力者、民生委員児童委員、またはボランティアに興味がある方を対象に、講習会を開催し新しい取り組みの補助や、情報提供、情報交換を行った。

### サロンサロンの実施

- |               |       |     |
|---------------|-------|-----|
| 【5月9日】 牧之原消防署 | 救急講習会 | 9名  |
| 【5月30日】 吉田消防署 | 救急講習会 | 12名 |

【8月7日】 相良総合センターい〜ら 麻ひもを利用して簡単リメイク 50名

【12月12日】相良総合センターい〜ら リズムに合わせて3B体操 20名

## ②ふくし体験講座の実施

夏休みを利用して、子ども達が障がいがある方の暮らしを体験することで、福祉への理解や自分たちにもできる活動を考えるきっかけ作りを目的にふくし体験講座を開催した。

【8月10日】相良総合センターい〜ら 26名（小学生12名 高校生14名）

## (2)サマーショートボランティアの開催を支援し、若い世代のボランティアの関心を高めた。

### ①サマーショートボランティアの充実

今年で37回目となり県ボランティア協会が主催となって、市内の27福祉施設で、中・高校生等が連続4日以上ボランティア活動を行った。

【活動期間】8月1日～8月30日

## (3)らいふサポーター養成講座の実施

再掲(Ⅲ-3-(4)-④)(P21)

## ☆評価

学生に福祉を知ってもらう機会を、夏休みに開催できたことはとてもよかった。夏休みふくし体験では、相良高校福祉家庭部の皆さんに協力してもらい車イスやアイマスク体験を通じて、小学生、高校生が一緒になって福祉とは何か、自分ができることは何かを考える機会となった。

また、サマーショートボランティアは、県ボランティア協会が主体となって実施したが、問題もなくスムーズに行うことができた。

## ☆課題

要支援の方が地域で安心して暮らすことができるためには、介護保険法の改正もあり、今以上の福祉の担い手づくりが必要となる。らいふサポーター養成講座の受講者を増やすとともに、受講後の活動(サポーター派遣事業「あるたす」や居場所づくり事業)を広める必要がある。

## 施策4 各種福祉サービスの利用支援

### (1)利用者の状況に応じて既存事業の見直し。

介護保険事業所(P30～43)

### (2)積極的に広報を行い、事業や制度の周知を図った。

#### ①社協広報紙「ふくしだより」の発行(年6回)

福祉意識の啓発と社協の活動を市民に理解してもらうため、A4版4面の「ふくしだより」を奇数月15日(土日祝日は前となる)に、自治会を通じて発行した。

【年間発行予定部数】月14,100部(計84,600部)

#### ②ホームページの充実

社協事業の報告やイベント情報をホームページなどに記載し、一般市民へ提供した。また、ホームページについては、多くの人に見てもらえるようお知らせを随時掲載するようにした。

【アドレス】<http://www.makinohara-shakyo.jp> 【Facebook】牧之原市 社会福祉協議会

#### ③ボランティア情報紙の発行

ボランティア保険の周知や市民ボランティアに対する意識向上、災害ボランティアコーディネーターを知ってもらうきっかけづくりとして、新聞折込によるボランティア情報紙を発行した。

【発行部数】14,000部

#### ④らいふサポーター養成講座チラシの発行

らいふサポーター養成講座の受講者募集と、支え合い活動の必要性を啓発することを目的とし、らいふサポーター養成講座チラシを発行し、全戸配布した。

(3) 関係機関との連携を強化し、サービスの質の向上に取り組んだ。

地域包括支援センターさがら及び生活支援センターつばさ(P44～P49)

(4) 介護予防及び生きがいづくりを目的とした、介護予防通所事業を継続して実施。

生きがいデイあしたか(P50～P52)

☆評価

ホームページも3ヶ月に1回を目安に、バックの色を変更して、飽きないような工夫をしている。広報紙については、わかり易く、見やすい情報誌になるよう心がけている。

☆課題

報告紙ではなく、情報紙になるようにアウトリーチし情報を集めるようにしたい。また、ホームページについては写真の更新など、見た目を変えるなどして何度見ても飽きないようにしたい。

施策5 情報提供の充実

(1) ふくしだよりの内容の充実を図った。

再掲(I-4-(2)-①)(P5)

(2) ホームページを活用し、新しい情報を発信。

再掲(I-4-(2)-②)(P5)

(3) ボランティア情報紙等を発行。

再掲(I-4-(2)-③④)(P5)

施策6 生活環境の整備の充実

(1) 日常介護用具総合貸与事業、施設入浴サービス事業、移動支援事業、福祉車両貸出事業を継続、実施。

① 日常介護用具総合貸与事業

介護保険が適用されない方で、日常生活上介護ベッドやエアマットが必要な方に3ヶ月以内で貸出を行う事業。

【貸出実績 0件】(9月末現在)

本年度は利用はなかったが、低所得者等が安価に利用できる事業であることから、継続して実施していく。

② 施設入浴サービス事業

相良ホームヘルプサービス・榛原ホームヘルプサービス(P35～P40)

③ 移動支援事業

相良ホームヘルプサービス・榛原ホームヘルプサービス(P35～P40)

④ 福祉車両貸出事業

[相良事務所]

マイクロバス(28人乗り)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
回数	13	10	14	6	7	8	
延べ人数	258	158	252	97	124	127	
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
回数	19	21	5	14	5	11	133
延べ人数	349	391	75	235	83	200	2,349



ハイエース(10人乗り)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
回数	1	0	0	0	0	1	
延べ人数	9	0	0	0	0	8	
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
回数	0	2	0	1	1	1	7
延べ人数	0	18	0	9	9	9	62

ワゴンR(福祉車両:スロープ車・3人乗り)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
実人数	7	8	9	7	6	6	
延べ人数	10	14	10	8	11	9	
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	5	7	8	5	5	9	82
延べ人数	7	9	9	5	5	12	109

エブリー(福祉車両:スロープ車・3人または4人乗り)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
実人数	5	5	7	6	4	6	
延べ人数	12	5	12	7	6	7	
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	4	5	3	5	4	5	59
延べ人数	6	9	4	8	8	8	92

〔榛原事務所〕

AZワゴン(福祉車両:スロープ車・3人または4人乗り)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
実人数	4	7	5	6	6	6	
延べ人数	4	8	5	8	8	14	
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	6	8	4	7	4	6	69
延べ人数	14	9	9	8	7	10	104

(2)心身障がい児(者)施設への通所者に通園費補助事業を継続、実施。

①心身障がい児(者)通園費補助事業

牧之原市内に居住し、心身障がい児(者)施設へ通う在宅心身障がい児(者)へ、1ヵ月1,000円の施設通園(所)費補助を行った。

【前期】132名(736,000円)

【後期】139名(740,000円)

(3)ふれあい食事会を実施し、ひとり暮らし高齢者にふれあいの場を提供。

①ひとり暮らし高齢者ふれあい食事会

相良地区(1回)

70歳以上のひとり暮らし高齢者を対象に、ボランティアグループ“あい♥クック”の協力により、会食方式の食事会を実施し、参加者同士やボランティアとの交流により楽しい時間を過ごした。

【9月11日】相良総合センターい〜ら 22名

内容:生きがいリーダーによるレクリエーションや笑いヨガで参加者同士の交流を深めた。

榛原地区(1回)

70歳以上のひとり暮らし高齢者を対象に、高校生ボランティアの協力により、会食方式の食事会を実施し、参加者同士やボランティアとの交流により楽しい時間を過ごした。

【8月20日】総合健康福祉センターさざんか 55名

内容:生きがいリーダーによるレクリエーションや笑いヨガで参加者同士の交流を深めた。

## ②ひとりぐらし高齢者給食サービス

### 相良地区(19回)

70歳以上の見守り等の支援が必要と思われる、ひとりぐらし高齢者及び高齢者世帯32名を対象に、200円の利用料で月2回ボランティアグループ“あい♥クック”が作ったお弁当を、民生委員児童委員が高齢者宅へ配食した。8・9月は食中毒の恐れがあるため弁当の配布を中止し、9月19日に民生委員の協力を得て見守り訪問を実施した。

【配付した弁当の延べ食数】553食

【見守り訪問】30名

### 榛原地区(19回)

70歳以上の見守り等の支援が必要と思われる、ひとりぐらし高齢者及び高齢者世帯11名を対象に、200円の利用料で月2回ボランティアグループ“オムレツくらぶ”が作ったお弁当を配達ボランティアが高齢者宅へ配食した。8・9月は食中毒の恐れがあるため弁当の配布は中止し、9月20日に見守り訪問を実施した。10月以降は、さざんか改修工事のため、相良地区の給食に合わせて調理、配達していく。今後は、榛原地区の給食サービスのあり方を検討していく。

【配付した弁当の延べ食数】170食

【見守り訪問】9名

## ☆評価

福祉車輛に関しては、利用者、貸出頻度はある程度固定化され、依頼日にはほぼ確実に希望通り貸出が可能となっている。

ふれあい食事会は参加者同士や地域の方々との交流ができた。給食サービスは安否見守りができることと、担当民生委員さんとの連携が取れ情報交換ができる。

また、今後給食サービス利用者の現状や緊急連絡先の把握を行うとともに、地域に根ざしたサービスのあり方を他機関とともに検討していく。

## ☆課題

福祉車輛の利用に関しては、2～3月にかけて施設入所者で通院や一時帰宅等の際に利用したいと新規申請に来られるケースが数件あった。そういう方に関してはストレッチャー対応の少し大きめな福祉車輛の方が適してる場合が多い。しかし、運転者の高齢化も懸念される中で、車輛のサイズが大きくなることに不安や負担感を抱く可能性も考えられるため、慎重に検討していく。また、申請様式の記入方法が分かりにくいとの声も聞かれるため、書式の見直しを行う。

給食サービス、ふれあい食事会を希望され参加される方は良いが、出てこられない、給食サービスの存在を知らないなどの方を、どのように巻き込んでいけるかが課題である。また、給食サービス利用者の現状を把握し、サービスのあり方を検討する。

## 施策7 次世代への支援の充実

### (1) 地域で子育て支援が行える体制の整備の取り組み。

#### ①児童館まつりに参加

相良児童館、榛原児童館を会場に、子ども達のふれあいや地域との交流を目的に開催された児童館まつりに、社協は模擬店(ポップコーン販売)に参加した。高校生ボランティアにもご協力いただき、子どもたちだけでなく地域住民と交流することができた。

【8月4日】相良児童館まつり 職員1名 ボランティア3名参加

【8月4日】榛原児童館まつり 職員2名 ボランティア2名参加

#### ②補助金の交付

子ども会連絡協議会の単位子ども会活動費に、共同募金より補助金として交付した。

【補助金額】150,000円

### ③移動子育て支援センターへの参加・協力

次世代に合った地域づくりに必要な意見を取り入れるために5地区の移動子育て支援センターや未来子育てネットワークに参加した。

#### ☆評価

児童館まつりにおいて、高校生ボランティアにも協力してもらい、ポップコーンの販売を行い、子ども達から喜ばれた。学生ボランティアについては、話し合いを行い来年度から児童館で学生ボランティアを募集してもらうこととなった。

#### ☆課題

移動子育て支援センターや未来子育てネットワークに参加し、子育て世帯と交流するなかで、住みやすい地域づくりに向けてのニーズ把握を行っていく。

## 基本目標Ⅱ 活動の輪を広げるまちづくり

### 施策1 地域や学校における福祉教育の推進

(1)福祉教育学校連絡会を開催し、福祉教育の推進と充実を図った。

【5月11日】市内小・中・高等学校へむけて、社協が協力できる福祉教育の内容紹介や車いす等の備品の紹介をした。また、小・中・高校別の分科会を行い、各教員へ社協で行っている事業を啓発した。(生活支援コーディネーター、生活困窮者自立支援制度、等)

(2)学校や関係機関と連携し、福祉体験学習の充実を図った。

#### ①福祉体験学習への支援

市内小・中・高校からの依頼で、子ども達の福祉に対する理解が深まるよう、講話・車椅子・アイマスク体験等を実施した。

【6月5日】地頭方小学校4年生	35名
【6月19日】坂部小学校6年生	15名
【7月9日】勝間田小学校6年生	22名
【10月22日・11月5日・12日・19日・26日】細江小学校4年生	73名
【11月13日】川崎小学校5年生	71名
【11月29日】菅山小学校3年生	22名

(3)障がい者(児)への正しい理解を推進。

自立支援ネットワーク等の会議へ出席し、理解の推進を図った。

(4)福祉教育ハンドブックの改定の計画。

ハンドブックの内容について、全面的に改定を進めている。

(5)福祉体験講座を実施。

#### ①ふくし体験講座の実施

再掲(Ⅰ-3-(1)-②)(P5)

#### ☆評価

今年度は、学校連絡会の後半を小・中・高校別の分科会にし、年代別に福祉教育について深める時間を設けることができた。また、各小学校には、依頼に合わせ福祉教育を行うことができた。

#### ☆課題

福祉教育について、全小中高校からの依頼を受け、福祉教育の時間を少しでも多く持ってもらえるように働きかけていきたい。

### 施策2 ボランティア・地域活動等の参加促進

(1)アンケートや懇談会を開催し、地域のボランティアニーズを把握。

福祉総合相談や地域に出向いていく中で、地域に必要なニーズの把握を行っている。また、サロンなどにおいても協力員にアンケートを行うことで、ニーズを把握する。

(2)ホームページや広報紙を活用して、ボランティア情報を発信。

①広報活動

再掲(Ⅰ-4-(2)-①②③④)(P5)

②ボランティア連絡会

個人登録制と団体登録制の2種類がある。事業としてもふれあい運動会や視察などを実施している。また、市内福祉施設の夏祭り等の当日ボランティアとしても参加し、交流を図っている。

個人登録 登録実人員 4名

団体登録 23団体 会員数延べ 761名

No.	グループ名	人数	主な活動場所	活 動 内 容
1	オムレツくらぶ	22	さざんか	給食サービス事業の調理ボランティア
2	音訳サークルやまびこ	3	さざんか	目の不自由な方へ、市の広報誌をテープへ吹き込む
3	手話サークル“フレンド”	7	さざんか	手話を覚える、ろうあ者との交流
4	生きがいリーダー連絡協議会	59	市内	介護予防を展開する中で、地域のよりよい健康、生きがい、地域づくりの推進を図る
5	牧之原市まちづくり実行隊	19	市内	おやじの会による親子ふれあい活動、勝間田川流域の環境保全活動、障がい者福祉活動サポートの実施
6	茶っこクラブ	12	市内	健康づくり活動、花の会活動、手芸活動
7	うぐいす	6	市内	老健施設でのハーモニカ演奏
8	一丁目龍友会	61	市内	龍眼山等の清掃活動
9	花の会	204	市内	市内の花壇への植栽、手入れ、花やみどりの講座の開催
10	ハートプラス・プロジェクト	3	市内	一般市民への救命手当・応急手当普及活動
11	おはなしクラブ	11	市内	市内小学校での読み聞かせ、朗読劇等の企画上演、おはなし会等の開催、児童クラブ催し物等への協力
12	牧之原せいそわの会	6	市内	福島原発事故によって県内へ避難移住している方への支援、福島県周辺から市内(県内)へ保養(放射線からの保養に限る)来る方への支援
13	作業ボランティア部	8	こづつみ作業所	陶器の転写紙貼り、下請け部品組立作業手伝い・各行事への協力
			第2こづつみ作業所	下請け部品組立作業手伝い・各行事への協力
14	介助部	2	つくしの家・つくしホーム	パターンニングの手伝い・各行事への協力、圏外療育(主に散歩)の手伝い・各行事への協力
15	浜岡原発を考える牧之原市民の会	11	市内	原子力災害が発生した場合の避難方法等を学び、一般に向けて学習会を行う。

No.	グループ名	人数	主な活動場所	活 動 内 容
16	牧之原市消費者協会	25	市内	啓発事業
17	牧之原市災害ボランティアコーディネーター	15	市内	災害ボランティアセンター立ち上げ訓練、市民への災害時ボランティアの必要性のPR活動等
18	東5丁目松林を守る会	20	市内	海岸松林の手入れ等
19	まきのはらし図書館友の会	15	市内	牧之原市図書館のPRと活動を支える、図書館の設備と機能を充実するための活動
20	サークル「てんとう虫」	4	市内	ギターやアコーディオン等に合わせ歌う会の開催、尺八演奏をきく会等芸能を楽しむ活動等
21	カメハメハ王国	230	市内	アカウミガメの上陸・産卵等の調査、2泊3日相良自然環境塾等
22	在宅介護ボランティアさくら会	11	市内	特養、老健、デイサービスの行事や外出の手伝い
23	すずらん	7	市内	高齢者の出掛ける場所へ出向きレクリエーションの提供

(3)活動者や地域との連携を強化するなど、ボランティアコーディネート体制の充実。

ボランティア連絡会の会議に参加するなどし、情報収集や事業連携などを行った。  
また、ボランティア活動を活発化させるため、社協にボランティアコーディネーターを配置し、ボランティア連絡会を中心とした活動の活発化を図った。

(4)エコキャップ運動の推進

ペットボトルキャップのリサイクル活動に参加することによって、環境や貧困など、世界が直面する様々な課題について、学び、考え、行動する機会を提供した。

【回収総重量】 2,357kg (28団体)

【回収個数】 1,013,295個

【ワクチン】 1,267名分

(5)地域で必要とされているボランティアの養成講座を実施。

地域福祉の担い手に、個人の得意分野を生かす場所を提供した。

【5月18日】い〜らのイスカバーづくり 4名

【8月28日】あるたす用バック、台ふき、巾着づくり 9名

(6)ふれあい運動会を実施し、ボランティア活動への参加の機会を提供し、ボランティアの交流。

毎年、地区を変え小学校を会場に年代、障がいの有無に関わりなく交流し、お互いに何かを感じ取ってもらおうと、ボランティア連絡会が主催し行った。

【6月16日】牧之原小学校体育館 60名 3福祉施設、牧之原市身体障害者福祉会

## ☆評価

ふれあい運動会では、児童以外にも保護者の参加も見られ、親子で障害を理解する機会となった。今後もボラ連と一緒に運営していきたい。

エコキャップについては、学校等教育の場だけでなく、個人や企業でも収集し、持参してくれる。また、NPO法人こころ(さがら作業所)では、社会貢献の一環で運搬等の支援、協力がある。前年度上半期と比較して45.5%の増となっている。前年度より、エコキャップ運動への参加が、1団体の増、個数で91,375個の増、ワクチンも114人分の増となり、年々増加傾向にあり、推進が図れた。

## ☆課題

ふれあい運動会は今年で13回目となり、内容の見直し等検討が必要。また、他行事と重なってしまい、福祉施設の参加が少なかった。今後も開催をするのならば、福祉施設とも連携を取る必要を感じた。エコキャップなど収集の情報は広まったが、シールをはがすなどのルールが守られていないところもあるため、情報提供を徹底していきたい。また、エコキャップ回収業者に、持ち込みをしなければならず、時間がかかることと、職員が2名で対応しなければならない。

## 施策3 地域資源の確保・活動推進

### (1) 地区社会福祉協議会の運営支援、未設置地区への設立。

6地区社協の事業(楽らくクラブ等)への運営支援を行っている。また、未設置の相良地区については、法人内で設置に向け検討を続けている。

### (2) 地区活動の支援として補助金を交付。

25区に活動費として約180万円、市民からいただいた会費の中から補助金を交付している。

### (3) ふれあい・いきいきサロン事業の推進、支援を行った。

#### ① ふれあい・いきいきサロン事業の充実(44サロン)

各区でのふれあい・いきいきサロン事業の充実及び支援を図った。それによって、地域住民と高齢者等との交流が活発になった。

サロン数 44サロン 参加延べ人数 16,171人 協力員延べ人数 3,851人

区分	相良区	福岡区	地頭方区	波津区第2ブロック	新庄区
名称	生き生きクラブ	生き生きクラブ	はつらつクラブ	ほのぼの会	憩いクラブ
開設年月	平成9年6月	平成9年6月	平成10年6月4日	平成11年7月4日	平成11年9月8日
開催日	毎月1回 第1月曜日	毎月1回 第3月曜日	毎月2回 第1・3木曜日	毎月1回	毎月1回 第2月曜日
開催時間	13:00～15:00	13:00～15:00	13:30～15:30	9:30～11:30	13:30～15:00
場所	相良区コミュニティ 防災センター	相良区コミュニティ 防災センター	地頭方区公民館	波津区公会堂、波津コ ミュニティーセンター	トーク地頭方
対象者	相良区・福岡区 内及び特別申し 込みのあった近 隣地区	相良区・福岡区 内及び特別申し 込みのあった近 隣地区	65歳以上の方	概ね75歳以上又 はひとり暮らしの 方	区の65歳以上の 高齢者
延べ参加者	311人	279人	343人	300人	607人
延べ協力員	173人	170人	148人	72人	23人
代表	西尾 仁男	増田 知英	本目 美知子	松下 かづ代	永井 和子

区分	波津区第1ブロック	大沢区	白井区	須々木区	片浜区
名称	にこにこ会	もんじゅの会	いきいきサロン	お元気クラブ	ふれあいサロン
開設年月	平成11年9月19日	平成11年10月8日	平成11年12月16日	平成12年4月7日	平成12年8月22日
開催日	毎月1回 第3金曜日	毎月1回 第3金曜日	毎月1回 第3木曜日	毎月1回 第2水曜日	毎月1回 15日
開催時間	13:00～15:00	13:00～15:00	13:30～16:00	13:30～15:30	9:00～11:30
場所	静和会館	大沢公民館	白井公民館	須々木区区民館	片浜防災センター
対象者	70歳以上の男女	60歳以上の高齢者	70歳以上の高齢者	区の70歳以上の方	区の高齢者
延べ参加者	99人	179人	282人	225人	253人
延べ協力員	45人	110人	59人	132人	90人
代表	松下 全代	内藤 詩子	永田 正之	西川 宣男	大鐘 俊英
区分	波津区第3ブロック	西萩間区	大江区	菅山区	牧之原区
名称	ほほえみ会	子生まれクラブ	大海老会	油会クラブ	茶の実クラブ
開設年月	平成12年8月30日	平成12年9月15日	平成13年3月	平成13年3月	平成14年2月26日
開催日	毎月1回 30日	毎月1～2回 第2水曜日	毎月1回 第1木曜日	毎月1回 20日	毎月1回 第3火曜日
開催時間	9:00～11:30	13:30～15:00	13:30～15:30	13:30～15:30	13:30～15:30
場所	波津区公会堂	西萩間区公民館	大江区民会館	菅山区公民館	牧之原区民センター
対象者	概ね65歳以上の方	区の概ね75歳以上の方	区の概ね70歳以上の方	区の高齢者	70歳以上の方
延べ参加者	87人	181人	290人	271人	215人
延べ協力員	102人	55人	73人	139人	125人
代表	羽田 智行	齊藤 義雄	今村 博至	森田 定	水嶋 眞志
区分	遠渡区	豊岡区	落居区	東萩間区(上)	東萩間区(下)
名称	サンサンクラブ	いきいきサロン豊岡	落ち合いサロン	笑和クラブ	いきいき東
開設年月	平成14年5月26日	平成14年5月29日	平成14年9月30日	平成14年10月11日	平成14年10月11日
開催日	毎月2回 第1、3月曜日	毎月1回 15日	毎月1回 第3土曜日	毎月1回 第2水曜日	毎月1回 第3木曜日
開催時間	13:00～15:00	13:30～15:00	13:30～15:00	9:00～11:30	9:00～12:00
場所	遠渡公民館	豊岡公民館	落居公民館	東萩間上公民館	東萩間下公民館
対象者	地域の高齢者	区内の65歳以上の方	概65歳以上の方	概ね65歳以上の方	75歳以上の方
延べ参加者	370人	336人	356人	146人	200人
延べ協力員	118人	48人	44人	44人	22人
代表	松下 律子	小川 弘廣	曾根 宏	小笠原 博	鈴木 進

区分	中里区	神寄区(大寄)	神寄区(女神)	波津区第4ブロック	勝間田区
名称	にっこりサロン	大の字クラブ	すこやかクラブ	ハッピークラブ	ほがらかサロン
開設年月	平成15年1月	平成15年1月	平成15年1月	平成15年7月1日	平成11年5月
開催日	毎月1回 第2金曜日	毎月2回 第2・4木曜日	毎月1回 第2金曜日	毎月1回 第1水曜日	毎月4～5回 毎週木曜日
開催時間	13:30～15:00	13:00～15:00	13:00～15:30	10:00～12:00	9:00～11:00
場所	萩間公民館	大寄公民館	女神公民館	大原公民館	勝間田会館
対象者	区内の概ね65歳以上の方	大寄地区の住民	概ね65歳以上の方	65歳以上の方	元気な65歳以上の方
延べ参加者	137人	720人	316人	180人	2,053人
延べ協力員	68人	240人	55人	43人	199人
代表	長谷川 明広	横山 夏日子	長野 明廣	栗山 清	大関 小佳枝

区分	静波区	川崎区	坂部区	細江区	勝間田区
名称	すこやかサロン	仁田すみれ会	坂部ふれあいサロン	はつらつサロン東福	サロンマカミ
開設年月	平成13年5月	平成13年11月	平成14年4月	平成14年6月	平成14年9月
開催日	毎月2回 第1・3火曜日	毎月1回 第2日曜日	毎月3回 第1・2・3金曜日	毎月1回 第2火曜日	毎月1回 第1土曜日
開催時間	9:30～11:30	9:00～11:30	9:00～11:30	13:30～15:30	9:00～12:00
場所	老人福祉センター	仁田公民館	坂部区民センター	東福田公会堂	間上老人憩いの家
対象者	65歳以上の方	65歳以上の高齢者	60歳以上の元気な方	町内会高齢者	80歳以上の高齢者
延べ参加者	241人	81人	1,255人	88人	130人
延べ協力員	81人	53人	366人	72人	20人
代表	大石 雅子	永田 政子	吉添 悦子	大井 照恵	鈴木 常夫

区分	川崎区	細江区	静波区	細江区	静波区
名称	橋向さくら会	時ヶ谷サロン	サロンのぞみ	東慶林ふれあいサロン	ふれあいサロン3丁目
開設年月	平成15年10月	平成19年12月	平成20年2月	平成20年7月	平成20年4月
開催日	毎月1回 第4水曜日	毎月1回 第3木曜日	毎月2回 第2・4木曜日	毎月2回 第1・3木曜日	毎月1回 第4水曜日
開催時間	13:00～15:30	9:30～11:45	13:30～15:30	10:00～11:30	10:00～12:00
場所	橋向公民館	時ヶ谷公民館	静波コミュニティ防災センター	東慶林コミュニティセンター	3丁目公会堂
対象者	65歳以上の一人暮らし世帯等と70歳以上の高齢者	時ヶ谷町内65歳以上の居住者	65歳以上の方	町内会の65歳以上の方	60歳以上の方
延べ参加者	220人	240人	233人	446人	191人
延べ協力員	77人	57人	54人	12人	32人
代表	河守 廣征	原川 正志	増田 恵美子	大石 志津乃	辻 雪江



区分	細江区	川崎区	牧之原区	静波区	静波区
名称	堀の内草の実サロン	仁田サロンひまわり	牧之原いきいき教室	凜・百花春サロン	静波はつらつ会
開設年月	平成21年2月	平成23年8月	平成8年6月	平成26年4月	平成18年4月
開催日	毎月2回 2日、第3火曜日	毎月1回 第2水曜日	毎月4回 毎週火曜日	毎月1回 第4土曜日	毎月2回 第1, 3金曜日
開催時間	13:30～15:30	13:30～15:30	9:00～12:00	10:00～11:45	9:30～11:30
場所	堀之内研修センター	仁田公民館	牧之原区コミュニティセンター	11丁目公民館・中川自宅	さざんか1階ホール
対象者	町内会の高齢者	仁田在住の65歳以上の方	区内65歳以上の方	静波区の幼児から高齢者まで多世代	区内65歳以上の方
延べ参加者	373人	187人	562人	174人	570人
延べ協力員	93人	22人	48人	38人	117人
代表	伊藤 睦子	羽生 正子	大崎 信博	中川 松枝	水野 多津江

区分	坂部区	地頭方区	静波区	豊岡区
名称	坂2井戸端亭	ビタミンスクール	はづき会	和っ笠会
開設年月	平成26年9月	平成27年4月	平成28年4月	平成29年4月
開催日	毎月1回 10日	毎月4回 毎週金曜日	毎月1回 毎月10日	毎月1回 第4木曜日
開催時間	13:00～15:30	9:00～11:30	9:30～11:30	13:30～15:30
場所	岩昌寺	トーク地頭方	4丁目公民館	笠名公民館
対象者	町内会の高齢者	75歳以上の高齢者	65歳以上の町内会住民	65歳以上の高齢者
延べ参加者	221人	1,654人	224人	345人
延べ協力員	166人	18人	92人	38人
代表	大石 鉄男	山下 公夫	本杉 郁代	大石 禮子

## ②サロン事業連絡会の開催

牧之原市内のサロン事業の推進を目的にサロン事業連絡会を開催し、各地域のサロン代表者間の交流を行い意見交換を行った。

【4月10日】相良総合センターい〜ら 36名

【3月20日】相良総合センターい〜ら 36名

## (4) 市民の誰もが参加できる、多様なサロン事業の検討。

サロンは高齢者の集まりではなく、誰もが参加できる形を目指し子どもから高齢者までいる複合型や、子育て中のお母さんを中心としたサロンなど、多様なサロンづくりの推進を図っている。

地域の子どもから高齢者までが一緒にいることが当たり前なサロンになっていけたらと考えている。

集まる場所についての問い合わせや、開催についての問い合わせがあった際には、立ち上がりまでの支援など必要に応じて実施している。

## ☆評価

サロン登録団体、自主的グループ共に、地域の方が主体となり運営ができています。サロン・サロンなどの交流会や訪問を通じて各団体への必要な支援を継続することで“高齢者の出掛ける場所への回数増加”の理解を深めつつある。

## ☆課題

協力員の不足や高齢化、新規参加者が増えないことが課題となっている。また、2回のうち1回は場所の提供のみで“居場所型”として実施した場合の、補助金への反映をどう考えていくか、今後検討が必要。

## 基本目標Ⅲ 助け合い・支え合いの仕組みづくり

### 施策1 市民参加型の小地域福祉活動の推進・支援

(1) 地区社会福祉協議会活動を支援し、未設置地区への設立。

再掲(Ⅱ-3-(1))(P12)

(2) ネットワークづくりや情報交換等、地域活動の支援を実施した。

① 地域支え合い活動協議体の実施

(Ⅲ-3-(4)-②~⑩)(P20~P21)

(3) 障がい児(者)との交流を目的に、ふれあい運動会を継続、実施。

再掲(Ⅱ-2-(6))(P12)

(4) 福祉施設交流会を継続、実施。

① 福祉施設交流会の充実(6施設)

市内6施設の通所者を中心にパン食い競争、グリーンシトラスミュージックさんによるコンサート、リズム遊び等を行い、施設の垣根を越えて交流会を実施した。

【11月19日】相良総合センターい〜ら 154名

(5) 市内すべての市民がふれあえる「ふれあい広場」。

① さざんかふれあい広場の中止

牧之原市の保健と福祉の拠点を活かし、子どもや高齢者、障がい者等、住民の誰もが参加し、ふれあいを楽しむことができることを目的に開催することになっているが、会場の関係で本年度は中止した。

② 社会福祉大会の開催(隔年)

隔年実施のため、平成30年度は未実施であった。

## ☆評価

福祉施設交流会は、例年同様市内9施設に声をかけている状況にあるが、行事や施設内作業状況によって参加できない施設が計3施設あり、昨年同様に6施設での開催となった。交流会はパン食い競争や、グリーンシトラスミュージックによるコンサート等を行い、施設の垣根を越えて交流を楽しむ姿が見られた。この福祉施設交流会が日常的な施設間での交流や連携の円滑化に繋がればと考える。

## ☆課題

福祉施設交流会の本来の目的は活動の場が制限されていた施設利用者の為に企画された事業であるが、施設ごとの取組みや行事は年々増えている状況にあり、実施日を調整することが困難になってきている。ただし、事業存続を求める声は根強い中で、利用者を取り巻く状況の変化から事業の変化を求める声も聞かれる。事業は継続していくが、開催について検討する中で、ニーズにあった交流会にしていく必要がある。

また、さざんかふれあい広場は、福祉ふれあい広場に名称を変更し、障がい者の社会参加を目的とした広場として開催を検討している。

さらに、社会福祉大会についても、毎年実施を検討している。

## 施策2 生活困窮世帯等への支援ネットワーク体制の強化

(1)生活困窮者自立支援事業を実施。生活困窮状態に陥っている方の自立へ向けた相談窓口として支援を行った。

### ①相談受付状況

相談件数		相談対応詳細	
相談受付件数	121件	電話連絡	296件
事業申込件数	45件	訪問、同行支援	402件
プラン策定数(再プラン含)	58件	面談	222件
家計再生プラン策定数	13件	生活保護受給者等就労自立促進事業利用	4件
終結	40件	フードバンク利用回数	17回

※終結・・・就労でき収入が増加したことで生活の安定(34件)

生活の基盤を整えたいうでの転居(4件)

本人の死亡(1件)

生活保護の受給(1件)

### ②支援調整会議

相談者に対する支援内容となるプランについて、行政及び関係機関と協議、決定する場として毎月第2、4火曜日に実施した。また、定期的に実施することにより、再プランや終結の判断等、進捗管理の役割も果たしたことに加え、終結後の関係機関による役割分担等の機能も担っている。

支援調整会議 24回実施

(2)生活困窮世帯に対し、自立するために必要な資金を貸付する福祉資金貸付事業の相談を行った。

### ①市福祉資金貸付事業

種類 (限度額)	区分	平成30年度			過年度分						欠損額	未償還額 及び滞納 額合計 ①+②+③
		貸付額	償還額	未償還額 ①	貸付額	償還額	H30償還額	未償還額 ②	滞納額 ③	利息		
一般資金 (10万円以内)	金額	113,000	33,000	80,000	1,508,454	527,000	216,000	20,000	972,704	11,250	0	1,072,704
	件数	3	2	3	19	9	5	1	16	1	0	20
高額療養 資金(100 万円以内)	金額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
介護保険 資金(20万 円以内)	金額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	金額	113,000	33,000	80,000	1,508,454	527,000	216,000	20,000	972,704	11,250	0	1,072,704
	件数	3	2	3	19	9	5	1	16	1	0	20

(3) 地域において自立した生活が送れるよう、日常生活自立支援事業、成年後見人制度の相談、支援を行った。

①日常生活自立支援事業(権利擁護事業)

判断能力が十分でない方が、できるだけ住み慣れた地域で自立して生活できるように、福祉サービスの利用援助や日常的な金銭管理を実施した。

【専門員の配置】 13名(兼務) 【生活支援員の配置】7名

【相談及び契約件数】

区 分	本事業の利用に関するもの				その他	合 計
	認知高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他		
利用回数	152	118	104	81	0	455
相談回数	58	63	36	23	0	180
新規契約締結件数	1	1	0	1	0	3
事業利用人数	4	6	4	3	0	17

(4) 就労意欲を示す生活困窮者に対して、生活や就職活動を支えるための一時的な現物給付を行う生活困窮者特別支援事業を実施した。

①事業利用者: 30名

②利用した支援の内訳

支援名	利用件数	支援名	利用件数
ライフラインの復旧支援	21 件	宿泊支援	1 件
移動支援	7 件	食糧支援	0 件
備品支援	0 件	緊急金銭支援	1 件
医療支援	9 件		

③支給総額 779,937円

☆評価

日常生活自立支援事業について成年後見制度へ繋げたケース1件、新規利用者3件となっている。各相談機関からも利用希望する対象者の相談が増加傾向にあり、関係機関と連携を取り、事業利用に繋げていく。

生活困窮者自立支援法の対象となる相談件数は昨年と比べてほぼ横ばいの状況にあるが、法律の専門家を含む他機関との連携が進み、新たな事業(生活困窮者特別支援事業)も創出できたことで支援の方法が多様になり、プランに繋がるケースが増えてきている。これまで、「住居と仕事を同時に失った方」、「病気や怪我で一時的に働けない方」、「ライフラインが止まり、就労意欲が低下した方」を生活保護や貸付以外の方法で支援することができなかったが、本事業によって、生活保護につなぐことなくプランで対応できるケースが増えた。

☆課題

日常生活自立支援事業について、保管品受取人が不在となっているケースが複数ある。関係機関とも連携をしながら親族把握を進めていく。また、事業利用する上で課題が出てきたケースについては、課全体の打ち合わせや法人内検討会へ相談をかけていく。

貸付については長期間滞納者への償還指導を根気よく継続していく必要がある為、今後も社協内で連携していく。

多問題世帯について他機関との連携が重要度を増している中で、支援調整会議を定期的に開催しているものの、障害分野や子ども分野の機関の参加がほとんどない状況にある。今後は生活支援係と協働して他機関との連携強化を進めていく必要がある。

### 施策3 地域包括ケアシステムの推進と福祉の連携と協働の強化

#### (1) 牧之原市社会福祉法人連絡協議会の開催

牧之原市内の社会福祉法人7法人が集い、情報交換などを実施した。本年度は、生活困窮者自立支援事業に関する市内法人の連携などについて意見交換を行った。

【2月28日】 相良総合センターい〜ら 7法人 17名(行政2名含む)

#### (2) 住民組織と連携し、地域での見守りネットワークを実施。

市が行っている「見守り隊」に参加協力し、地域での見守りを行っている。また、今後行う住民アンケートにより必要な対策を行いたいと考えている。

#### (3) 多問題ケースへの対応について関係機関と連携を図った。

生活困窮と介護など、多問題ケースについては包括や居宅など、関係機関とのケア会議を開催している。

#### (4) 生活支援サービス事業を実施。

介護保険制度の改正における生活支援サービスの充実・強化に向け、高齢者の社会参加の場や、ボランティア、NPO等による多様な生活支援サービスが利用できる地域づくりを目指し、ボランティア等生活支援の担い手の養成や地域資源の開発を行った。

##### ① 地域支え合い推進員事業打合せ

事業を実施するにあたり、現状の確認と今後の方針について共有することを目的に、行政との打ち合わせ会を行った。

・地域支え合い推進員活動事業打合せ 6回

##### ② 地域支え合いガイドブックの作成・配布

地域の集いの場や互助による支え合い活動を掲載したガイドブックを作成し、一人暮らし高齢者をはじめとした活用が見込まれる方や担い手と成り得る65歳を迎えた方へ配布を行い、活動の啓発を図った。

##### ③ 地域支え合い活動協議体の実施

地域の困りごとを解決していくための話し合いの場として、“地域支え合い活動協議体”を実施。課題ごと3つの部会に別れ、活動の具体化と充実を図れるよう検討を行った。11月より中学校区へと体制を見直し、相良地区、榛原地区にわかれて話し合いを行った。

#### ア. ちよっとした困りごとへの支え合い部会

【4月18日】	第1回	相良総合センターい〜ら	5名
【6月4日】	第2回	相良総合センターい〜ら	4名
【7月11日】	第3回	相良総合センターい〜ら	3名
【8月21日】	第4回	相良総合センターい〜ら	4名
【9月20日】	第5回	相良総合センターい〜ら	5名

#### (実践活動)

スローガン、チラシを作成し、波津西、豊岡区へチラシの配布と協力を呼び掛け、活動についての啓発を行った。区内のゴミステーションでチラシが掲示され、豊岡区ではサロン参加者に困りごとについてのアンケート調査が実施された。

#### イ. 歩いて出掛けられる集いの場部会

【4月17日】	第1回	相良総合センターい〜ら	9名
【5月21日】	第2回	総合健康福祉センターさざんか	7名
【6月12日】	第3回	相良総合センターい〜ら	10名
【7月23日】	第4回	総合健康福祉センターさざんか	11名
【8月23日】	第5回	相良総合センターい〜ら	8名
【9月12日】	第6回	文化センター	7名

(実践活動)

榛原地区:直接的な支援はしていないが、方針を伝えていた西福田町内会にて4月からサロンのような活動が始まった。その後10月より青池町内会にて居場所“おいで会”が第1、第3火曜日に実施されている。また、サポーター養成講座修了生を中心に“ちよつくら処〜しずなみ”が立ち上がった。

相良地区:商工会にて居場所“ちよつくら処〜風”が毎月15日に実施されている。

ウ.外出の支援部会

【4月10日】	第1回	相良総合センターい〜ら	6名
【5月22日】	第2回	総合健康福祉センターさざんか	7名
【6月22日】	第3回	総合健康福祉センターさざんか	7名
【7月10日】	第4回	相良総合センターい〜ら	8名
【8月6日】	第5回	総合健康福祉センターさざんか	8名
【9月11日】	第6回	相良総合センターい〜ら	8名

(活動実施に向けての話し合い)

【7月4日】	第1回	坂部地区サロンとやまばと学園との話し合い
【8月9日】	第2回	坂部地区サロンとやまばと学園との話し合い
【7月5日】	第1回	川崎地区社協と送迎支援について話し合い
【7月12日】	第2回	川崎地区社協と送迎支援について話し合い
【8月3日】	第3回	川崎地区社協と送迎支援について話し合い
【9月6日】	第4回	川崎地区社協と送迎支援について話し合い

(実践活動)

社会福祉法人の協力を受け、『海山荘＝大沢もんじゅの会』『相良清風園＝牧之原茶の実クラブ』と、地域のサロンへの送迎支援が実施された。また、活動実施に向けやまばと学園、うたしあ、とそれぞれ話し合いを重ね、10月より1ヶ月に3回の坂部地区サロンへやまばと学園が、11月11日川崎地区高齢者の集いの際にうたしあが、参加者の送迎支援を行った。

エ.地区協議体

・相良地区

【11月13日】	第1回	相良総合センターい〜ら	14名
【12月4日】	第2回	相良総合センターい〜ら	12名
【1月8日】	第3回	相良総合センターい〜ら	11名
【2月12日】	第4回	相良総合センターい〜ら	14名
【3月12日】	第5回	相良総合センターい〜ら	12名

・榛原地区

【11月12日】	第1回	文化センター	7名
【12月17日】	第2回	文化センター	12名
【1月16日】	第3回	文化センター	7名
【2月18日】	第4回	文化センター	11名
【3月18日】	第5回	文化センター	8名

(実践活動)

両地区共に、“集いの場を広げる”という方針で話し合いを進めている。相良地区に関しては、集いの場を広げつつ、地区を絞って困りごとについてのアンケート調査を行う方針。榛原地区に関しては、スーパーと連携して“買い物支援V”を実施する方針とし、実現に向けて話し合いを進めている。

④らいふサポーター養成講座の実施

牧之原市内の生活支援体制の充実を図るための担い手養成として、高齢者支援を実施するうえで基本的な知識や技術を学ぶことを目的とした“らいふサポーター養成講座”を実施した。

(講座内容)

第1回(共通1回) 牧之原市の高齢者のことを知ろう!

(前期)

【5月15日】5名

(後期)

【11月13日】5名

第2回(共通2回)	みんなで考えよう！わたしがして欲しいこと、わたしができること	【5月22日】6名【11月20日】9名
第3回(共通3回)	介護予防と簡単な介護	【5月29日】6名【11月27日】9名
第4回(共通4回)	知って納得！高齢者との接し方	【6月5日】6名【12月4日】9名
第5回(共通5回)	高齢者の対応に伴うリスク管理	【6月12日】6名【12月11日】9名
第6回(グル1回)	地域の集いの場での生きがいづくり！	【6月19日】6名【12月18日】7名
第7回(お宅1回)	高齢者宅での高齢者支援活動について	【6月26日】5名【1月8日】7名
第8回(グル2回)	エンジョイ！レクリエーション体験	【7月3日】6名【1月15日】7名
第9回(お宅2回)	訪問のコツ！みつけよう	【7月10日】5名【1月22日】8名
第10回(グル3回)	チャレンジ！みんなでやってみよう！(実践)	【7月18日】6名【1月29日】8名
第11回(お宅3回)	チャレンジ！お宅訪問！(実践)	【7月24日】5名【2月5日】7名
第12回(共通6回)	今後の活動について	【7月31日】5名【2月12日】7名

講座内容	新規申込者		H29までの申込者	
	受講者	修了者	受講者	修了者
グループサポーター	14	10	6	6
お宅サポーター	16	10	0	0

※「H29までの申込者」は欠席回のみ受講

#### ⑤サポーターフォロー事業

らいふサポーター養成講座のグループサポーター課程の修了者を対象に、活動意欲の維持と今後の活動へ繋げることを目的とし、フォロー講座を実施した。

- 【4月25日】レクリエーション提供ボランティア“すずらん”立ち上げ話し合い 5名
- 【3月22日】藤枝市「おはなし長屋」視察研修 9名

#### ⑥サポーター派遣事業「あるたす」の実施(サポーター養成講座「訪問課程」修了生)

サポーターが高齢者宅等を訪問し、“ちょっとした困りごと”への支援を行うとともに、高齢者の見守りと自立した日常生活を送ることが出来るよう支援することを目的に実施した。

支援内容	支援回数	利用単位数
服薬の確認	41	41
服薬の確認と買い物	9	23
話し相手	24	24
掃除	72	142
バス降車時の見守り	18	18
薬の受け取り	1	2
昼食の買い物	1	2
ゴミ出し	45	45
風呂、ガスレンジ周辺掃除	2	5
計	213	302

登録サポーター 30名

利用者 11名

※1単位=200円/15分として実施

・あるたす定例会の実施(サポーターの日程調整と活動時に気付いた点等を共有)

【4月27日】	い〜ら	20名	【10月30日】	い〜ら	16名
【5月28日】	さざんか	19名	【11月29日】	文化センター	13名
【6月29日】	い〜ら	18名	【12月20日】	い〜ら	16名
【7月30日】	さざんか	19名	【1月30日】	文化センター	14名
【8月31日】	い〜ら	18名	【2月27日】	い〜ら	13名
【9月28日】	文化センター	14名	【3月28日】	文化センター	21名

⑦居場所の実施(サポーター養成講座「グループ課程」修了生)

ちよっくら処〜風	毎月15日商工会にて実施
	延支援者 45名 延参加者 男性6名 女性76名
ちよっくら処〜しずなみ	毎週木曜日榛原庁舎西館にて実施
	延支援者 136名 延参加者 男性239名 女性181名

⑧サロンステップアップ研修

サロン協力員の負担軽減と意欲向上を目的に、介護予防の視点を取り入れたサロン協力員のステップアップ研修を実施し、理学療法士を講師に招き普段サロンで実施している活動に対し、アドバイスをもらう機会を提供した。また、効果的な介護予防の取り組みとして、週1回の出掛ける機会の提供を呼び掛け、サロンの回数増加について促し、協力員の意識を高めた。

【6月27日】	榛原総合病院 講堂	41名
【3月5日】	静波コミュニティ防災センター	44名

⑨生活支援体制整備に向けた地域の基盤づくり

生活支援の体制整備を進めていくには、地域における住民主体の活動や、関係機関を絡めた活動が重要となるため、萩間地区の絆づくり事業に参加しきっかけづくりを行い、地域住民、社会福祉法人が繋がり、具体的な取り組みとして相良清風園を会場とした居場所“ちよっくら処〜はぎま”が立ち上げられ、移動が困難な方への送迎支援も実施されている。

【6月1日】	萩間地区絆づくり会議への参加	【11月6日】	萩間地区絆づくり会議への参加
【7月7日】	萩間地区絆づくり会議への参加	【11月7日】	ちよっくら処〜はぎまの実施
【8月7日】	萩間地区絆づくり会議への参加	【12月6日】	ちよっくら処〜はぎまの実施
【9月5日】	ちよっくら処〜はぎまの実施	【1月9日】	ちよっくら処〜はぎまの実施
【9月6日】	萩間地区絆づくり会議への参加	【1月11日】	萩間地区絆づくり会議への参加
【10月3日】	ちよっくら処〜はぎまの実施	【2月6日】	ちよっくら処〜はぎまの実施
【10月17日】	萩間地区絆づくり会議への参加	【3月6日】	ちよっくら処〜はぎまの実施

⑩介護予防ケアプラン会議への参加

専門職による個別支援プランを検討する場である介護予防ケアプラン会議に参加し、サロンをはじめとする地域資源についての情報提供を行った。

【8月30日】	第1回介護予防ケアプラン会議	榛原庁舎4階会議室
【11月21日】	第2回介護予防ケアプラン会議	榛原庁舎4階会議室
【2月20日】	第3回介護予防ケアプラン会議	榛原庁舎4階会議室

⑪地域支え合いアンケートの実施

地域で実践されている活動の啓発と、住民の活動に対する思いを確認することを目的に、市内各世帯を対象にアンケート調査を実施した。

## ☆評価

地域支援事業については、社協だけが検討するものではなく、市や関係機関と連携していくことが重要と考えている。そのため、行政との打ち合わせを重ね、お互いに共通認識がずれないようにしてきた。

継続して実施している“らいふサポーター養成講座”の修了生が“あるたす”や“高齢者の集いの場づくり”での活動に繋がっていることや、協議体で検討された活動が動き出したりと、地域の担い手による支え合い活動が広がりつつある。



☆課題

今後に向けては、協議体にて検討され地域課題の解決策として実施していくこととなる具体的な事業と、社協が進めていく“小地域での福祉活動”について、同じ方向性をもって進めていくことができるよう、課内の連携を強めていく必要がある。また、新たな活動の担い手となってきた“らいふサポーター養成講座”の修了生について、当初に比べて受講者数が減少傾向にある為、募集についての工夫が必要となる。

施策4 社会福祉協議会への活動支援・組織強化

(1) 事業内容について広報活動し、市民の参加、理解を呼びかけた。

① 広報活動

再掲( I - 4 - (2) - ①②③④) (P5)

② 社協会費(単位:口)

普通会費(1口300円)	特別会費 (普通団体・個人1口1,000円) (特別団体 1口5,000円)	賛助会費(1口5,000円)
11,288 口	1,000円 162 口 5,000円 4 口	200 口
3,386,420 円	182,000 円	1,000,000 円
合計		4,568,420 円

③ 寄附金

寄附者の属性	件数	金額
法人の役職員	0 件	0 円
利用者本人	0 件	0 円
利用者の家族	0 件	0 円
取引業者	0 件	0 円
その他	37 件	1,558,153 円
合計	37 件	1,558,153 円

④ 共同募金事業

赤い羽根共同募金は、民間の運動として終戦直後の1947年(昭和23年)に、市民が主体の取り組みとしてスタートした活動。みんなで集めた募金は、自分のまちを良くする活動に使用され、市民自らの行動を応援する募金活動。

一般募金(募金期間:10月1日~12月31日)

種別	金額	備考
戸別募金	3,659,700 円	10,977世帯
法人募金	1,431,500 円	430社
街頭募金	19,719 円	富士山静岡空港
学校募金	131,133 円	8小学校・3中学校・2高校
職域募金	63,483 円	市役所・静岡銀行・社協
その他募金	48,914 円	自動販売機・区コミュニティーセンター
合計	5,354,449 円	

歳末たすけあい募金(募金期間:12月1日～12月31日)

種 別	金 額	備 考
戸別募金	731,000 円	10,977世帯
合 計	731,000 円	

(2)歳末助け合い運動事業

共同募金の一環として実施するものである。新たな年を迎える時期に支援を必要とする人達が安心して暮らせるよう民生委員の協力を得て展開する事業。

ア.歳末慰問事業

実施期間:平成30年12月1日～12月31日

対象者:36名(相良地区13名・榛原地区23名)

※平成30年10月1日現在牧之原市在住で次のいずれかに該当する世帯)

- [1] 障害児・者のいる世帯(身障手帳1. 2級・療養手帳A・精神障害者保健福祉手帳1級のいずれかに該当)
- [2] 高齢世帯で著しく生活にお困りの世帯
- [3] 母子世帯・父子世帯で著しくお困りの世帯

イ.ひとり暮らしの高齢者のおせちセット配付事業

実施日:平成30年12月27日

対象者:340名(相良地区163名・榛原地区177名)

給食サービス対象者及び利用していないが、歳末のみ差し上げたい73歳以上(平成30年10月1日現在)のひとり暮らしの高齢者でお正月をひとりで過ごす方(高齢世帯は除く)

☆評価

学生や民生委員児童委員など、多くの協力により募金が集まった。特に給食サービスやふれあい食事会など、見守りが必要な方への支援が多くできたと思う。また、おせち配付や慰問金の配付では、ひとり暮らしの方は地域の方々に見守られていることに感謝の言葉が聞けた。

昨年度、ふれあい広場実施見直しにより、街頭募金運動を富士山静岡空港にて実施したため、市民だけでなく、市外及び空港を利用する海外の観光客に対しても活動PRの良い場所となった。

☆課題

戸別募金では地域コミュニティーの変化により協力が難しくなっている地区や法人募金では高齢化等の影響により事業所の閉鎖等により募金額の減少が見られた。

活動に対しての理解を得て、今後も新たな協力者の増加を目指していく。

(2)事務所間、職員間の情報共有に努め、組織の充実を図ります。

①理事会・評議員会・監査会・経営改善委員会の開催

会議名	開催日	場 所	出席者	主 な 議 事
第1回理事会 書面決議	30.4.16	—	7/7	1.バス購入契約の締結
共同募金監査	30.4.19	相良総合センター い〜ら	2/2	1.共同募金伝票確認 2.法人伝票確認

会議名	開催日	場 所	出席者	主 な 議 事
決算監査	30.5.29	相良総合センター い〜ら	2/2	平成29年度決算監査 1.事業報告 2.会計経理・資産管理 3.法人組織・運営
第2回理事会	30.6.11	相良総合センター い〜ら	7/7	1.平成29年度事業報告の承認 2.平成29年度一般会計収支決算の承認 3.定款の一部変更 4.就業規程の一部改正 5.経理規程の一部改正 6.評議員候補者の推薦等に関する規程の一部改正 7.役員選任規程の一部改正 8.理事の推薦 9.評議員候補者の推薦 10.評議員会の招集 (報告事項) 1.平成29年度苦情報告 2.事務局長の給与 3.会長の職務執行状況報告 4.第1回理事会(書面議決)
第1回評議員会	30.6.27	相良総合センター い〜ら	8/13	1.平成29年度事業報告の承認 2.平成29年度一般会計収支決算の承認 3.定款変更の一部変更 4.理事の選任 (その他) 1.評議員選任・解任委員会の開催
第1回 経営改善委員会	30.6.28	相良総合センター い〜ら	3/3	1.職員の給与の状況 2.処遇改善手当と資格手当及び資格支援制度(案) 3.事務局長の給与 4.法人後見制度
第1回選任解 任委員会	30.7.5	相良総合センター い〜ら	4/4	1.評議員の選任
第3回理事会 書面決議	30.8.7	—	7/7	1.一般会計補正予算(第1号)
第2回評議員 会 書面決議	30.8.19	—	13/13	1.一般会計補正予算(第1号)
第2回 経営改善委員 会	30.9.21	相良総合センター い〜ら	3/3	1.本年度収入状況 2.処遇改善手当等(案) 3.パートタイマー等賃金改定(案) 4.給与改定 5.資格支援制度(案) 6.法人後見事業

会議名	開催日	場 所	出席者	主 な 議 事
第4回理事会	30.10.9	相良総合センター い〜ら	7/7	1.一般会計補正予算(第2号) 2.給与規程の一部改正 3.給与細則の一部改正 4.パートタイマー等の給与規程の一部改正 5.公印規程の一部改正 6.資格取得支援制度要綱の制定 7.評議員会の招集 (報告事項) 1.法人成年後見人事業の実施 2.第3回理事会(書面議決) 3.四半期監査の結果 4.財政援助団体に関する監査の結果 5.会長の職務執行状況報告 6.市からの職員派遣要望
第3回評議員会	30.10.22	相良総合センター い〜ら	8/13	1.一般会計補正予算(第2号) 2.給与規程の一部改正 3.給与細則の一部改正 4.パートタイマー等の給与規程の一部改正 (報告事項) 1.法人成年後見人事業の実施 2.第2回評議員会(書面議決) 3.四半期監査の結果 4.財政援助団体に関する監査の結果
第5回理事会	30.12.17	相良総合センター い〜ら	6/7	1.給与規程の一部改正 2.給与細則の一部改正 3.パートタイマー等の給与規程の一部改正 4.一般会計補正予算(第3号) 5.評議員選任・解任委員会委員の選任 6.第4回評議員会(書面議決) (報告事項) 1.前期監査の結果
第4回評議員会書面議決	30.12.21	—	13/13	1.給与規程の一部改正 2.給与細則の一部改正 3.パートタイマー等の給与規程の一部改正 4.一般会計補正予算(第3号)

会議名	開催日	場 所	出席者	主 な 議 事
第6回理事会	31.2.22	相良総合センター い〜ら	6/7	1.一般会計補正予算(第4号) 2.定款の一部変更 3.経理規程の一部改正 4.事務局規程の一部改正 5.事業計画(案) 6.一般会計予算(案) 7.評議員会の招集 8.会計システム等賃貸借契約 9.育児休業及び育児短時間勤務等に関する規程等の一部改正 10.第三者委員の選任 11.事務局長の選任 (報告事項) 1.会長の職務執行状況報告 2.相良いきいきセンター指定管理者指定 3.四半期監査の結果
第5回評議員会	31.3.18	相良総合センター い〜ら	10/13	1.一般会計補正予算(第4号) 2.定款の一部変更 3.事業計画(案) 4.一般会計予算(案) (報告事項) 1.第4回評議員会(書面議決) 2.相良いきいきセンター指定管理者指定

(3) 人材の掘り起こし並びに人材の確保を行うとともに、新規スタッフに対して講習を実施し、スキルの向上に努めた。

①求人活動

ハローワークや口コミ、広報紙、福祉大学などによる求人募集を行った。

②雇用促進への取り組み

障がい者の方が就労しやすい環境づくりに努め、就労しやすくした。

③スキルアップについて

新規採用職員を採用した為、採用前の事前研修(本会)や県社協の新人研修への参加をした。各部署ごと、必要な県内外の研修に参加した。

☆評価

本年度は、マイクロバス購入や台風の影響によりデイサービスセンターの空調機器が稼働しなくなったことによる対応で書面決議によるものとしたものが2回あった。また、職員の給与体系の見直しを実施するために経営改善委員会を2回開催し、見直しを実施した。さらには、職員の資格取得に向けての支援する制度を定めることができた。

☆課題

職員の採用については、募集を実施しているが応募者がいない状況であることから様々な情報手段を利用して人員確保に努めていく必要がある。また、社協会費については、各地区への依頼などを行っていることから丁寧な説明や用途を明確にし、引き続きご協力をお願いしていく必要がある。

## その他:福祉団体等の支援

(1) 社会福祉協議会は下記福祉団体等の事務及び補助を行っております。

- ① 牧之原市老人クラブ連合会(シニアクラブ牧之原) (支援内容:総会、GG・輪投げ大会等)
  - ・シニアクラブ牧之原相良支部
  - ・シニアクラブ牧之原榛原支部
- ② 牧之原市手をつなぐ育成会
  - ・青年学級
  - ・ひまわり会
- ③ 牧之原市遺族会 (支援内容:慰霊祭、総会、役員会等への協力支援等)
  - ・遺族会相良支部
  - ・遺族会榛原支部
- ④ 牧之原市ボランティア連絡会 (支援内容:総会、ふれあい運動会、夏の出前講座、交流会、視察等)

(2) 社会福祉協議会は下記福祉団体等へ補助を行っております。

- ① 牧之原市子ども会連絡協議会
- ② NPO法人精神保健福祉みどり会
- ③ 榛原地区相良更生保護女性会
- ④ 榛原地区榛原更生保護女性会
- ⑤ 榛南断酒会
- ⑥ 榛原地区保護司会相良支部
- ⑦ 榛原地区保護司会榛原支部
- ⑧ 法務省榛原保護区榛原地区保護司会
- ⑨ 明るい社会づくり運動静岡県牧之原市地区協議会(榛原地区)

介護保険事業  
障害者支援事業  
受託事業  
指定管理施設  
管理業務

## 平成30年度事業報告

○事業所名 社協 陽だまり

○決算額(資金収支計算書) 単位(円)

	デイサービス	障害福祉	合計
事業活動収入	69,321,528	2,216,187	71,537,715
事業活動支出	64,128,952	457,116	64,586,068
差 額	5,192,576	1,759,071	6,951,647

○事業について(内容・方針・目標等)

- ・「生きる力を喜びに変えて」をコンセプトに、自分の人生の喜びと生きることの幸せを感じられることができるよう利用者一人一人に寄り添う支援を目指す。
- ・地域の関わりとして、介護保険施設という認識の壁を地域の方々が感じない、自然に足を運べる施設を目指す。

○評価

- ・集団活動から個別活動に変えたことで活動の幅が広がった。また、活動を選択制にしたことで個別支援に繋がった。
- ・機能訓練室を目的とした利用者の確保ができた。
- ・インフルエンザの蔓延により、4日間の休業を行った。ご利用者様、スタッフにマスクの着用や体調がすぐれなかった場合には受診を進めるなど、対策を早めに行えば良かった。

○課題

- ・利用者の関わり方等の視点やスキルアップ。
- ・事業に携わっていただけるボランティアの参加。
- ・送迎車の老朽化。
- ・個別機能訓練加算の確立。

○運営状況(利用者数等)

一般型通所介護(定員35人) 年間利用者数 8,104

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均
利用者数	491	557	554	575	623	599	591	617	585	479	583	595	570.8
総合事業利用者数	81	89	99	112	125	109	112	109	110	95	104	110	104.6
月平均	19.1	20.8	21.8	22.2	24.1	23.6	22.7	24.2	24.8	23.9	24.5	22.7	22.9
減免者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
減免額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0

生活介護(ふじのくに型福祉サービス) 年間利用者数 293

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均
利用者数	2	2	2	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2.2
利用回数	20	25	20	23	32	26	26	26	24	21	24	26	24.4



## ○防災対策

- ・移転に伴う、災害時に必要とされる救急用品について再確認した。
- ・災害時マニュアルの見直しを職員間で行った。(10月)
- ・防災訓練(2月)

## ○苦情、事故報告

- ・介護事故 6件 施設内転倒骨折1件、歩行器ブレーキに手を挟む、誤薬等
- ・車両事故 3件 利用者宅水道の蛇口(屋外)を破損。利用者宅で脱輪。交差点の左側宅のコンクリートブロックへ接触。
- ・ヒヤリハット 33件 (フロア内の死角になる所や移動中が多い)
- ・苦情 なし
- ・要望 5件 (仕事の関係で送迎時間の要望等)

## ○参加事業(家族・地域・アンケート調査等)

- ・介護者懇談会(6月)  
6月14日 介護者の方と日頃の情報交換等 12名参加
- ・介護者懇談会(3月)  
3月8日 補聴器を付けるタイミングと耳と認知症の関係
- ・夏休み 子ども紙すき体験 10名参加
- ・ふじのくに型福祉サービス事業継続中
- ・特別支援学級の生徒との交流
- ・川崎小学校福祉委員、5年生の生徒との交流
- ・利用者様アンケート実施 H31.2月～3月

## ○実習生やボランティアの受入

- ・実習生 清流館高校1年生(3名)・・・7月(5日間)・10月(4日間)  
焼津高校2年生(1名)・・・8月(3日間)
- ・サマー  
ショートボラン  
ティア 清流館高校1年生(1名)  
静岡北高等学校3年生(1名)
- ・ボランティア 清流館高校1年生(1名)、樟誠高校3年生(1名)

## ○職員体制

- ・職員数26名  
介護福祉士6名・ヘルパー2級13名・看護師5名・無資格1名・事務員1名

## ○職員研修

- 外部研修
  - ・認知症研修 みみより会
  - ・認知症BPSDを考えるセミナー
  - ・生活場面から見る利用者の身体観察のポイント
  - ・個別機能訓練加算習得セミナー
- 内部研修
  - ・パワーリハビリテーション研修会(基礎研修)
  - ・障害の理解について
  - ・レクリエーション講習

## 平成30年度事業報告

○事業所名 相良デイサービスセンター

○決算額(資金収支計算書) 単位(円)

	デイサービス	認知症対応型	障害通所サービス	合計
事業活動収入	70,277,296	23,936,362	1,381,380	95,595,038
事業活動支出	56,315,505	23,494,986	793,913	80,604,404
差 額	13,961,791	441,376	587,467	14,990,634

○事業について(内容・方針・目標等)

・「みんな笑顔で、ホッと心が安らぐ場所の提供」を目標に、利用者さんの笑顔を引き出すように取り組んでいます。

○課題

- ・利用者の確保
- ・職員の確保

○運営状況(利用者数等)

一般型通所介護(定員30人) 年間利用者数 8,497

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均
利用者数	503	476	495	530	508	498	564	549	525	475	520	620	522
総合事業利用者数	158	188	177	179	196	199	208	208	196	186	165	174	186.2
月平均	22.0	21.4	22.4	22.9	22.7	23.2	24.9	25.2	25.8	23.6	24.5	25.6	23.7
減免者数	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
減免額	2,473	1,825	2,653	2,547	2,678	2,118	2,840	1,979	1,874	2,409	1,874	2,409	2,307

認知症対応型通所介護(定員12人) 年間利用者数 2,085

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均
利用者数	142	186	204	211	211	190	195	169	148	143	137	149	173.8
月平均	4.7	6.0	6.8	6.8	6.8	6.3	6.2	5.6	5.2	5.1	4.8	4.8	5.76
減免者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
減免額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

生活介護(ふじのくに型福祉サービス) 年間利用者数 181

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均
利用者数	3	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1.8
利用回数	17	16	16	17	18	14	17	15	14	12	12	13	15.1

一般型は、要介護認定の利用者が増えない一方で総合事業の方が増えているので利用者数としては増加しているが収益の面では増えていません。認知症対応型に関しては登録者数が13人と減っています。ふじのくに型については、新規利用者がなく収入面では横ばいです。

○防災対策

・9月13日に 消防署の方を招き、火災による避難訓練、放水訓練を行った。放水訓練は利用者も全員参加し実施しています。

## ○苦情、事故報告

- ・介護事故 15件 受診3件①転倒し頭部打撲、裂傷②指の打撲③転倒し打撲  
利用中に外に出たことに気がつかなかったケース1件／転倒6件／深爪2件  
／異食1件／指の切傷1件／指の打撲1件／
- ・ヒヤリハット 127件 介助中にバランスを崩し転倒しそうになるケースや送迎に関するケースが多い。(今年度は積極的にヒヤリハットをあげることに取り組みました。)
- ・車輛事故 3件 利用者宅の庭でバックをした時に後ろにあった押し車にあたった。  
バイパス出口で、ネコをよけようとして左側面をコンクリート壁にこすった。  
左折時に、左側によりすぎて左側面をコンクリート壁にこすった。
- ・苦情 なし
- ・要望 5件 ベットまで送る方を玄関までしか送らなかった。衣類の返し間違い等
- ・労災 4件 利用者宅でハチに刺される。指を切る。介護中の受傷2件
- ・その他 2件 おかずの中に異物(木片)が混入。  
利用者様の洗濯物の中に携帯が入っており、水没させた。

## ○参加事業(家族・地域・アンケート調査等)

- ・介護者懇談会 2回開催  
介護者の方と日頃の情報交換等 第1回5月9日8名参加 第2回3月18日15名参加
- ・地域密着型運営推進会議2回開催 第1回8月23日 第2回2月19日  
介護者代表、波津第1ブロック長、市役所職員、社協局長、デイ職員
- ・ふじのくに型福祉サービス事業継続
- ・障害者施設外就労支援 1名受入
- ・利用者・介護者アンケート

## ○実習生やボランティアの受入

- ・介護体験 ・静岡大学教育学部 1名
- ・職業体験 ・相良中学校 3名(5月15日～17日)
- ・ボランティア ・日赤奉仕団毎月1回市内2地区の方が来所  
・アコーディオン、ハーモニカ、舞踊、カラオケなどのボランティアの方々来所  
・相良保育園、相良小学校
- ・交通安全教室 ・毎月1回 婦人交通指導員の方の交通安全のお話

## ○職員体制

- ・職員数 28名  
介護福祉士8名/ヘルパー2級4名/看護師4名/社会福祉主事3名/管理栄養士1名/  
調理師5名/無資格2名/事務職 1名

## ○職員研修

- ・外部研修
  - ・おむつについて
  - ・虐待について
  - ・スキンケアについて
  - ・介護技術研修(基礎編)
  - ・口腔ケア講座
  - ・福祉レクリエーション講座
  - ・看護職員研修(食べる力を支え抜く看護の役割)
  - ・栄養士研修(安心しておいしく口から食べるための食支援)
- ・内部研修
  - ・心肺蘇生法研修(6月6日) 消防署にて
  - ・腰痛を予防するために(8月6日) 榛原病院PT
  - ・牧之原体操(8月21日)
  - ・個人情報漏洩とプライバシーの侵害(12月12日)
  - ・高血圧と動脈硬化(1月22日)
  - ・レクリエーション研修(3月5日)

・社協内研修 ・事務研修 ・交通安全研修

○食事について

- ・主菜の選択メニューを月に15日程度取り入れました。(肉料理か魚料理・うどんかそば・親子丼か牛丼等)
- ・お寿司の選択の日やお鍋の日も設けました。また、おやつを選択も取り入れました。

○その他

- ・相良小学校より車イス2台寄贈されました (アルミ缶を集めて車イスに交換したもの)
- ・台風接近のため、7月14日及び9月4日は短縮の提供としました(9:15~13:30)
- ・7月の台風の影響で空調設備が故障、9月はじめに交換し修理を終えました。
- ・脱衣場の床材の老朽化があり床材を張り替えました。
- ・介護用ベッドが老朽化したため、3台入れ替えをしました。
- ・県・市の実地指導(7月4日)

## 平成30年度事業報告

○事業所名 相良ホームヘルプサービス事業所

○決算額(資金収支計算書)

単位(円)

	訪問	障害(居宅)	施設入浴	移動支援	同行援護	合計
事業活動収入	15,979,809	9,977,328	4,873,671	1,512,470	830,330	33,173,608
事業活動支出	16,517,972	11,738,732	4,119,329	1,369,269	137,020	33,882,322
差 額	△ 538,163	△ 1,761,404	754,342	143,201	693,310	△ 708,714

○事業について(内容・方針・目標等)

「ふだんのくらしの幸せ作り」を基本目標に日々ご利用者様の御宅を訪問させていただいております。この住み慣れた地域で安心して毎日を送っていただけるよう、介護の軽減もはかれるよう、又皆様の心に添える介護ができますよう、日々介護技術の向上に努力していききたいと思います。職員一同笑顔の挨拶で取り組んでいきたいと思ひます。

○課題

- ・事務所の移転をしたがスペースが狭く、書庫や荷物が置けない。
- ・土曜日、日曜日、早朝に働けるヘルパーが少ない。
- ・腰痛等体力面や精神面でも不安を持つヘルパーが増えている。
- ・デイサービス、ショートステイを利用される利用者が増えている。
- ・新規利用者様が少なく、利用されても数回の訪問で入院されてしまうことが多かった。

○運営状況(利用者数等)

訪問介護事業

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
身 体	時間数	153.00	138.00	103.50	113.50	131.50	128.00	113.50	127.00	111.00	97.75	107.50	125.00	1,449.25
身 体・ 生 活	時間数	25.50	33.25	35.50	42.50	27.00	35.00	30.50	34.50	30.00	30.00	23.25	26.00	373.00
生 活	時間数	157.75	174.50	52.50	194.00	181.00	178.75	206.75	175.00	172.50	157.25	142.00	137.25	1,929.25
合 計	時間数	336.25	345.75	191.50	350.00	339.50	341.75	350.75	336.50	313.50	285.00	272.75	288.25	3,751.50
利用者数		32	33	35	36	34	34	33	34	36	33	29	29	398

付 記

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
早朝・ 夜間	時間数	0.00	0.00	0.00	0.00	2.50	7.00	6.50	6.50	6.50	6.00	6.00	6.50	47.50
	人 数	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	8	

障害福祉サービス

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
身 体	時間数	78.50	86.00	78.50	73.00	81.00	68.00	79.50	90.00	65.00	64.50	65.00	894.50
生 活	時間数	178.25	165.50	162.00	135.50	130.50	121.50	119.00	107.75	108.50	106.75	106.00	1,560.50
通 院	時間数	6.50	17.00	8.00	11.50	8.00	11.50	9.00	10.50	8.50	11.00	4.00	111.50
同行援護	時間数	17.50	16.50	13.00	13.00	11.50	7.00	21.00	19.50	16.50	17.00	18.00	191.00
重度訪問	時間数	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
合 計	時間数	280.75	285.00	261.50	233.00	231.00	208.00	228.50	227.75	198.50	199.25	193.50	2,757.50
利用者数		28	27	27	26	26	26	25	26	23	25	23	306

### ○職場環境の整備

- ・公用車駐車場、通勤車駐車場の草刈り。
- ・建物周辺の草取り、草刈り。

### ○職員体制

- ・職員数17名(介護福祉士7名・実務者研修修了者1名・ヘルパー2級8名・事務職員1人)
- ・重複(同行援護6名、同行援護応用編2名・難病患者等のヘルパー2名)

### ○職員研修

- ・外部研修
  - ・平成30年度静岡県ホームヘルパー連絡協議会総会
  - ・チームワーク・協働連携の組織づくり
  - ・第1回サービス提供責任者研修会
  - ・介護保険サービス提供事業者説明会(集団指導)
  - ・自立支援ネットワーク(年6回)
  - ・障害集団指導
  - ・同行援護従業者養成研修一般課程受講・同行援護従業者創生研修応用課程
  - ・高齢者虐待の予防と対応
  - ・平成30年度共感を得る「ことば」講座研修
  - ・介護保険の改定と介護サービス事業所の対応
  - ・認知症の理解とケア研修会
  - ・高次脳機能障害支援ネットワーク連絡会議 ケース検討会について
- ・内部研修
  - ・毎月1回ヘルパー会議
  - ・SISシステム内容及び操作方法についての研修
  - ・個人情報の漏洩、プライバシーの侵略について
  - ・動脈硬化と高血圧
  - ・レクリエーション研修 レクの必要性、意義等実技

### ○その他(市への要望等)

- ・特になし

### ○評価

4月より事業所が移転し、戸惑いもあり環境に慣れるのが大変でしたが、相良デイの方々と協力し合い同じ社協の仲間として一年間頑張る事ができました。  
後半になり利用者様が減少し、各居宅事業所へお願いをしましたがなかなか新規が増えず実績も減少してしまいました。  
アンケート結果を再度検討し、利用者様や利用者様を支援している方々の要望を聞きながら、添える介護を続けて行きたいと思っております。

## 平成30年度事業報告

○事業所名 榛原ホームヘルプサービス事業所

○決算額(資金収支計算書)

単位(円)

	訪問	障害(居宅)	施設入浴	移動支援	同行援護	生活支援	合計
事業活動収入	18,360,204	8,161,522	4,685,120	1,106,869	1,361,610	38,150	33,713,475
事業活動支出	16,628,436	7,923,012	4,400,107	1,199,077	2,293,693	38,150	32,482,475
差額	1,731,768	238,510	285,013	△ 92,208	△ 932,083	0	1,231,000

○事業について(内容・方針・目標等)

「ふだんのくらしのしあわせづくり」を目標に、日々の訪問に取り組んでおります。研修もほぼ研修計画どおりに参加できています。職員の資質向上を図り、ご利用者様の不安のない生活、ご家族様の介護の軽減のお手伝い出来るように、スタッフ一同笑顔で業務に取り組んでいきたいと思ひます。

○課題 総合事業や障害福祉サービスを行っている事業所が少ないため依頼はありますが、介護職員不足のため受け入れが出来ない時がありました。毎年定年退職者がいるため募集もかけてはいるが、応募がない現状を考えると事業の見直しが必要になってくると思ひます。

○運営状況(利用者数等)

訪問介護事業

区 分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
身 体	時間数	198.00	228.00	224.00	215.00	228.00	220.00	244.00	208.00	185.00	187.50	166.00	192.50	2,496.00
身体・生活	時間数	28.00	30.00	29.00	30.00	29.00	26.00	30.00	32.00	28.00	31.00	30.00	31.00	354.00
生 活	時間数	139.75	136.00	133.00	125.00	126.00	97.00	135.00	127.00	125.75	123.50	117.50	112.75	1,498.25
合 計	時間数	365.75	394.00	386.00	370.00	383.00	343.00	409.00	367.00	338.75	342.00	313.50	336.25	4,348.25
利用者数		42	45	46	48	47	47	45	44	45	42	39	39	529

付 記

区 分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
早朝・夜間	時間数	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	人 数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

障害福祉サービス

区 分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
身 体	時間数	54.50	59.00	45.50	51.50	54.00	48.50	60.00	56.00	53.50	57.00	48.00	55.00	642.50
生 活	時間数	90.00	98.00	119.50	130.00	137.00	134.00	141.50	135.50	133.50	129.00	136.50	132.00	1,516.50
通 院	時間数	1.50	1.50	1.50	1.50	3.00	2.50	2.50	2.50	1.00	2.50	2.50	1.00	23.50
同行援護	時間数	39.00	44.50	42.00	25.00	4.50	22.50	14.00	27.50	27.50	26.50	20.50	25.00	318.50
合 計	時間数	185.00	203.00	208.50	208.00	198.50	207.50	218.00	221.50	215.50	215.00	207.50	213.00	2,501.00
利用者数		25	26	27	27	24	28	27	26	25	25	27	26	313

施設入浴サービス事業

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
身体介護あり	回数	30	35	27	34	33	31	38	38	35	24	35	395
	人数	4	4	4	4	5	5	5	5	5	5	5	56
身体介護なし	回数	4	5	4	5	4	4	5	4	4	3	4	50
	人数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
合計	回数	34	40	31	39	37	35	43	42	39	27	39	445
利用者数		5	5	5	5	6	6	6	6	6	6	6	68

移動支援事業

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
18歳以上	身体介護あり(時間数)	24.50	22.00	20.00	18.50	2.00	10.25	22.00	23.50	21.50	14.00	16.50	20.50	215.25
	身体介護なし(時間数)	5.00	8.75	4.00	7.50	0.00	3.00	7.50	7.50	9.00	6.50	7.50	5.50	71.75
	利用者数	4	4	4	4	2	5	5	6	5	4	6	6	55
18歳未満	身体介護あり(時間数)	4.00	2.00	4.00	2.00	0.00	1.75	1.00	3.00	2.00	2.00	2.00	3.00	26.75
	身体介護なし(時間数)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	利用者数	1	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	11

生活管理指導員派遣事業

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
時間数	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	4.00	0.00	0.00	0.00	4.00
利用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1

利用料の減免処置 なし

自費利用

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
時間数	15.00	9.00	29.00	20.00	19.00	23.00	18.50	36.00	17.00	18.00	24.00	27.00	255.50
利用者数	5	6	8	6	5	6	3	7	4	5	5	7	67

走行距離

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
車8台 Km	4,174	5,013	4,423	5,102	4,473	4,177	5,208	4,965	4,126	4,524	4,156	4,093	54,434

○防災対策

- ・メール確認
- ・各車輛にヘルメット・ライフジャケットを配備及びラジオの整備(8台)

○実習生やボランティアの受入

- ・前期 ・清流館高校実習生(6名)

○苦情、事故報告

- ・介護事故(8件) ・ふくらはぎに蓄尿パックを装着するが、接合部分がしっかり止めてなかったため尿漏れをしてしまった。
- ・施設入浴時に車椅子の上で服を脱がそうと、身体を起こした時すべりそうになった。



- ・施設入浴の送りの時に、肩ベルトを締め忘れたが、出発の前に同行の家族からの指摘で気がついた。
- ・事務仕事に夢中になり訪問の予定時間に遅れてしまった。
- ・同行援護で買い物に行った時に、利用者様の足がスーパーの棚に当たってしまった。
- ・自宅での入浴時、利用者様がズボンを脱ごうとした時にしりもちをついてしまった。
- ・入浴介助の時。浴槽の淵に置いたシャンプーボトルを利用者の足の甲に落としてしまい内出血させてしまった。
- ・起床介助で着替えの時、靴下が左足小指の爪に引っかかり折れてしまった。

- ・交通事故 (4件)
  - ・利用者を施設にお迎えに行くため、駐車スペースにバックで駐車しようとした際、後方確認不足で、フェンスコンクリート土台に車の右側後部が当たった。
  - ・訪問に向かう途中、左折確認不足で、住宅塀コンクリートに車の左側後方をこすった。
  - ・陽だまり送迎車の後ろのドアを閉めるため、取り付けであるストラップを引っ張ったはずれしまった。
  - ・左折をする時、対向車に気を取られ、左角コンクリート枠に左後方ドアとタイヤホイールをこすった。

・苦情 (0件)

○職場環境の整備      ・なし

○職員体制

- ・職員数15名(介護福祉士8名、ヘルパー1級1名、ヘルパー2級5名、事務職員1名)

○職員研修

- 8月20日 第1回サビ責研修会
- 10月2日 精神疾患の理解講座
- 10月3日 介護職の為のフットケア講座
- 10月5日 第2回サビ責研修会
- 10月19日 生活場面から見る利用者の身体観察のポイント講座
- 11月14日 訪問介護のグレーゾーン
- 11月19日 口腔ケア講座
- 11月22日 福祉職員の為のヒヤリハット・アクシデントセミナー
- 12月4日 介護現場における高齢者虐待の予防と対応
- 12月7日 障害福祉サービス事業者説明会

○その他(市への要望等)      ・障害福祉サービスをうけてくれる事業所を増やして欲しい。

○評価

- ・介護保険の新規が急激に増え、利益はあがったが職員の余裕がなく手一杯の状態。
- ・人手不足のため、なかなか外部研修に参加できなかった。人員確保が難しい状態。事業内容の見直しが必要だと思われる。

## 平成30年度事業報告

○事業所名 牧之原市社協ケアプランセンター

○決算額(資金収支計算書) 単位(円)

	居宅介護
事業活動収入	34,360,852
事業活動支出	28,511,292
差 額	5,849,560

○事業について(内容・方針・目標等)

『笑顔』を目標に、日々の訪問を行い、利用者、家族支援をしています。ご利用者様、ご家族様の心情を理解し在宅生活が維持できるよう支援していきたいと思えます。研修に参加しケアマネジャーとしてのスキルアップ・質の向上を図ります。困難ケース、生活保護の方等、市、包括支援センターと連携を図り対応するよう努めています。牧之原市全域を担当し6人のケアマネジャーがおり内2名が主任ケアマネジャーの資格を持っています。特定事業所加算Ⅱをとっています。

○課題 ・静波を拠点とし相良地区への訪問の移動時間がかかるため効率の良い訪問計画を立てていく必要がある。

・新規依頼を受けているが牧之原市内のケアマネジャー不足で依頼が多く受けきれないことがある。ケアマネジャー不足である。社協内から新しくケアマネジャーの資格をとりケアマネジャーになる人がいない。

・総合事業・要支援者への支援は業務量のわりに収入が低く効率よい仕事をする必要がある。

・地域包括支援センターからの困難ケースの受け入れ、またケースの多様化により一つのケースにかかる電話の時間、対応回数、訪問時間が増えている。病院訪問、入退院、入退所やガンによる病状変化の対応により書類作成事務量が増えている。

・転送による24時間体制での携帯所持をしており休日、時間外の対応があり負担が大きい。

○運営状況(利用者数等) (単位:名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総合事業	13	13	12	14	15	16	12	11	12	11	11	9	149
要支援1	11	10	10	8	7	7	8	8	8	8	7	5	97
要支援2	29	28	28	27	26	25	26	25	23	22	19	21	299
要介護1	65	65	68	69	70	71	72	75	75	74	73	75	852
要介護2	50	51	49	52	44	39	43	41	37	36	35	40	517
要介護3	23	23	21	23	26	25	24	25	29	27	24	22	292
要介護4	18	18	16	17	19	22	21	19	20	22	20	22	234
要介護5	8	7	7	8	9	8	9	11	10	10	7	9	103
合計	217	215	211	218	216	213	215	215	214	210	196	203	2,543

○防災対策

- ・ヘルメット、救命胴衣を公用車へ搭載

○苦情、事故報告

- ・交通事故 1件
- ・苦情 なし

○参加事業(家族・地域・アンケート調査等)

- ・アンケート調査実施

○実習生やボランティアの受入

- ・実務研修見学実習生 受入なし

○職員体制

- ・職員数6名(介護福祉士5名、管理栄養士1名)※主任ケアマネ2名

○職員研修

外部研修

- ・4月 介護報酬改定説明会
- ・5月 ベットの選び方
- ・6月 災害ケアマネジメント
- ・7月 吉田牧之原ケアマネジャー連絡会「災害時ケアマネジメント研修」
- ・7月 民生委員との交流会
- ・7月 中部支部研修「サービス担当者会議」
- ・8月 吉田牧之原ケアマネジャー連絡会
- ・8月 介護予防ケアプラン会議見学会
- ・8月 牧之原市高齢者虐待対応マニュアル説明会
- ・9月 総合病院相談員とケアマネジャーとの意見交換
- ・9月 認知症について・ユマニチュード
- ・10月 ケアマネジャーと民生委員との交流会
- ・10月 平成30年度第7回ケアマネジャー発表会
- ・11月 SISシステム操作研修
- ・11月 認知症について②
- ・11月 介護支援専門員スキルアップ中央研修
- ・11月 吉田牧之原ケアマネジャー連絡会
- ・11月 第2回牧之原市在宅医療・介護連携推進会議
- ・12月 牧之原市介護保険サービス集団指導
- ・1月 平成30年度地域リハビリテーション支援事業研修会
- ・1月 平成30年度介護・福祉4団体合同研修
- ・1月 サービス事業所連絡会研修会
- ・2月 吉田牧之原ケアマネジャー連絡会
- ・2月 メンタルヘルス講習
- ・3月 平成30年度サテライト型在宅介護支援センター研修会

○その他(市への要望等) なし

- 評価
- ・本年4月から榛原居宅介護支援事業所と相良居宅介護支援事業所を統合し、社協陽だまり2階へ事務所の引っ越しを行い、牧之原市社協ケアプランセンターとなり、6人の体制となることができ、新規の受け入れも行われている。
  - ・平成30年4月からの報酬改定の内容把握に努め、対応ができた。
  - ・研修に参加し資質の向上に努めている。今年度主任ケアマネジャー研修1人、専門Ⅱ研修1人の受講終了した。
  - ・包括支援センターからの困難ケースの受け入れを行い、また利用期間の短いケースもあるが誠意をもって対応している。
  - ・相良地区を訪問する時に移動時間がかかるが調整し新規受け入れ、毎月の訪問、調整を行うことができている。移動時間が長く負担感はある。
  - ・職員間で情報を共有しながら、お互いに助けあいながら業務にあたることができている。

## 平成30年度事業報告

○事業所名 地域包括支援センターさがら

○決算額(資金収支計算書) 単位(円)

	包括支援
事業活動収入	39,489,960
事業活動支出	38,305,328
差 額	1,184,632

○事業について(内容・方針・目標等)

- 1 地域包括ケアシステムの構築に向けた基盤作り(市と協働)
- 2 相談支援の充実と地域包括支援ネットワークの構築活用
- 3 権利擁護に関する啓発と活用(市と協働)
- 4 介護予防ケアマネジメントと介護支援専門員に対する支援、指導

○課題

- 1 相談業務は他部署での経験が相談対応に生かされて支援に繋がるため、経験のある職員が必要だが、専門職で経験のある職員の確保が難しい。又、後継者の育成ができていないので職員の入れ替え、異動が難しくなっている。
- 2 事業所が市役所相良庁舎内に設置させているため、市民が相談しやすい反面、プライバシーが守られにくい環境である。マイナンバーの関係で庁舎内の同一フロアにいることについても検討が必要となっている。又、相良庁舎に介護保険担当課がないことに加え、相良保健センターに保健師が常駐していないため包括に相談が集中してしまう。
- 3 相談対応に時間をとられ、記録が間に合わない状態となっている。人員不足。
- 4 地域のケアマネ不足により、プランの委託及び介護プランについても受け入れ先がない状況である。包括でも対応しきれない状況である。

○職員体制 社会福祉士1名/主任ケアマネジャー4名/看護師1名/ケアマネジャー1名/社会福祉主事2名

○包括4業務について

(1)総合相談支援業務

総合相談月別件数 (4月:前年度未報告分上乘)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
電話	220	130	168	151	146	112	207	131	110	162	82	104	1,723
面談(来所)	64	86	53	287	64	40	53	44	46	37	48	49	871
訪問	68	32	45	47	36	27	51	50	59	43	49	39	546
会議	7	7	6	4	9	1	11	5	12	13	7	9	91
合計	359	255	272	489	255	180	322	230	227	255	186	201	3,231

相談内容 (4月:前年度未報告分上乘)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護問題	127	96	116	118	143	73	132	97	99	113	93	98	1,305
医療疾患	37	38	32	35	30	26	45	15	40	36	14	16	364
施設病院	22	16	28	23	38	6	64	31	40	39	23	45	375
心理的問題	5	8	12	3	2	0	2	4	7	9	2	5	59
経済的問題	22	17	31	23	31	13	34	39	44	39	4	17	314
生活問題	159	136	141	381	133	124	90	106	110	115	80	109	1,684
その他	50	26	14	11	17	8	12	5	1	11	4	6	165
実態把握	23	19	15	15	13	13	12	30	34	25	33	18	250
合計	445	356	389	609	407	263	391	327	375	387	253	314	4,516

(2) 権利擁護支援業務

権利擁護相談件数 (4月:前年度未報告分上乗)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
虐待	0	1	3	0	0	20	8	0	6	12	10	6	66
虐待予防	4	5	7	4	6	5	6	4	1	8	2	29	81
成年後見 活用支援	5	1	4	2	0	0	2	0	2	2	0	1	19
日常生活自立 支援活用	0	0	0	0	3	2	0	0	0	7	0	0	12
消費者相談	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
措置支援	0	0	0	6	2	0	5	7	8	5	5	12	50

研修会 ・高齢者虐待対応マニュアル説明会(8月30日)

会議 ・成年後見体制検討会開催に向けての事前会議(4回) ・公開講座打合せ(4回)

(3) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

○会議への参加

◇民協定例会への参加 1回/3ヶ月 ◇主任ケアマネ連絡会 月1回 ◇計画部会(随時)

◇ケアマネ連絡会 年6回 ◇支援センター連絡会 月1回

◇高・障連絡会 2月1回 ◇認知症初期集中支援チーム検討委員会兼チーム員全体会議(随時)

◇地域支え合い事業会議 月1回 ◇市との定期報告会 月1回

○交流会

◇民生委員高齢者部会との交流会 5月 ◇サテライト型研修会(薬局との交流会)年1回

◇民生委員とケアマネとの交流会 7月・2月

○介護者への支援

◇介護者教室 年4回(5・7・1・3月) ◇介護者元気回復事業(リフレッシュ事業)年2回(9・11月)

(4) 介護予防ケアマネジメント業務

◇予防給付プランの作成(さがら介護予防支援事業所)

◇介護予防マネジメントプランの作成

区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
予防給付	直接支援	33	38	36	36	37	43	48	53	52	54	59	63	552
	委託	106	106	103	103	99	100	94	95	98	90	84	84	1,162
総合事業	直接支援	112	108	112	106	105	96	114	115	116	108	114	113	1,319
	委託	47	49	49	50	53	53	42	39	39	38	35	34	528

○苦情、事故報告

・交通事故 なし

・苦情 なし

○評価

\* 担当職員や他の職員の働きにより、実態把握件数300件達成することが出来た。効果的な実態把握が行えるように、民生委員との個別面談の実施をしたため、効率的な実態把握が行えている。

- \* 社協相談支援係とは月に1回ケースワークの機会を持ち、ケースの対応方法、進捗管理等、一緒に検討ができた。また、法人後見体制強化のために新たに”法人内検討会”を立ち上げ、ケース検討の場を持って行く。包括を含めた社協全体で取り組んでいきたい。
- \* 処遇困難ケース等の相談は包括でアセスメントを実施し、情報を整理した上で高齢者福祉課に報告を入れ、対応方針の確認をしている。緊急なケースは内線を活用して話し合い、それ以外は月1回の定期報告会でケース検討を実施している。高齢者福祉課が相良庁舎にはないため、協力して対応したい事があっても、どうしても包括だけで対応をせざるを得ないことがある。
- \* 成年後見に関する課題解決に向け、牧之原市成年後見検討会を開催し、牧之原市における課題の整理と課題解決に向けた方針を出した。来年度からは個別支援協議会を新たに立ち上げ、専門職を入れて、ケース検討の場を持つこととなった。本人の権利を護るための検討をし、成年後見人を含めたチームを結成し、成年後見人の支援体制の構築を目指したい。
- \* 成年後見人の受け手不足の課題は、令和2年度に牧之原市と吉田町で市民後見人養成講座を開いていくこととなった。また、令和元年度から社協の法人後見も開始するため、法人後見と市民後見の体制作りのために協力をしていく必要がある。
- \* 業務内容や事業内容について、地域の現状やニーズに即したものを常に意識し、市と協議しながら取り組む必要がある。
- \* 民生委員との研修会やサテライト研修会を重ねていくことで、民生委員や薬局等、連携が必要な機関との顔の見える関係作りが徐々に構築され、連携が図り易くなっている。
- \* 認知症初期集中支援チーム配置に関して、包括支援センター業務の総合相談と認知症初期集中支援チームのどちらで対応をしていくべきかの棲み分けが難しい状況である。これは全国的に課題として挙げられている状況のため、認知症初期集中支援チームが活動しやすい環境づくりをするために、対象となるケースや挙げ方など引き続き市と協議をしていく必要がある。
- \* 人員増の為、公用車の増車をした。
- \* 総合事業が平成29年4月より開始となり、包括直接支援の件数が150件ほどある。プラン件数の増大により、プランナー1人あたりの件数も増え、今年度より2.7人工の配置となっている。市内のケアマネ数も減りつつあり、プランを担当してくれない(受け入れない状況)。早期の解決が必要である。プランナーが多くプランを担当してくれたため、収入は増で市への返還金が発生した。また、3職種でもプランを担当しなくては回らない状況となり、総合事業での業務量が他の相談業務などに影響している。
- \* 高齢者人口が7,000人を超え、相談対応の件数も多くある。職員は経験を積んで相談対応ができるものであり、人材育成が必須な状況。人材育成をしていくには、職場内の余裕もなく十分な教育も出来ない状況にある。今年度も新しい職員が来たが、対応できず4か月で異動となった。職員1名が産休に入り人数減となった。12月からは清風園からの職員派遣1名来ているが、3職種3人の負担が多い状況である。令和3年には、清風園が3か所目の包括を新設予定であり、令和元年度は清風園からの派遣職員が2名となる為、仕事配分が上手くいくと良い。
- \* 介護予防普及啓発のため、サロン等に出向くようにしている。今後、あしたかと連携を図り自主クラブ等にも啓発したり、ニーズを掴み新たな出先の調整にも繋がるようにしたい。

# 平成30年度事業報告

○事業所名 生活支援センターつばさ

○決算額(資金収支計算書) 単位(円)

	つばさ
事業活動収入	20,238,740
事業活動支出	21,151,983
差 額	△ 913,243

○事業について(内容・方針・目標等)

- ① 障害や障害者に対する市民の理解や認識の促進に努めます。
- ② 障害のある人やご家族からの様々な相談を受け、関係機関との連携のもと適切な対応や支援を行います。

○課題

- ① 3障害と難病の対応により、各々の障害特性に対応した支援方法は幅広く、対応に苦慮することがある。成年後見・就労・子育て・夫婦間の問題・触法障害者における更生保護・医療的支援など多岐にわたる知識が求められています。
- ② 支援に関わる専門的な知識の拡充や相談員の自己研鑽として、各種研修への参加や相談員独自で専門的知識を学び身に付ける必要があります。(特に発達障害の方の対応には苦慮している。専門的知識が必要になっている。心理士との連携が必要になっている。)
- ③ 障害者の方は家族のいない方が多く、手帳や年金受給における支援、定期的な通院・急性増悪での入院時支援など、どこまでが支援の範囲であるか判断に困る事があります。
- ④ 市内のサービス事業所が不足している事や、公共交通機関が充実していない事で、相談支援専門員が自ら支援を行うことが増えている。また、市外事業所に依頼した際に距離的な問題で利用を断られるケースもある。フォーマル、インフォーマルの資源の確保が必要です。
- ⑤ 相談支援に時間を費やすことが多く、障害理解や障害者に対する市民の理解を深めるための活動が十分に出来ていないと感じます。障がい教育等を含め、より充実した啓発活動を行う必要があります。
- ⑥ 他事業所がやるべきであろうことも「つばさ」で行うことが多く、関係部署と役割を再構築する必要があります。(例:受診同行、就労支援など)
- ⑦ 委託の相談や圏域の会議等が増えているため、ひとりの方に費やす時間が減り支援が薄くなっている為、検討が必要です。
- ⑧ 委託相談の件数は年々増加しているが、委託費は変わらないため、採算が取れていないのが現状です。(委託費の増額要望が必要。)

○職員体制 相談支援専門員4名

○会議への参加

- ・高齢者障害者連絡会
- ・相談支援部会
- ・牧之原市障害者自立支援ネットワーク運営会議
- ・牧之原市障害者自立支援ネットワーク事務局会議
- ・各特別支援学校による進路連絡会
- ・まきねっとミーティング
- ・医療福祉連携チーム会議
- ・榛南・榛北相談員連絡会(れおーねの会)
- ・志太榛原圏域自立支援協議会
- ・志太榛原圏域重症心身障害児(者)支援専門部会
- ・志太榛原圏域地域移行・地域定着支援専門部会
- ・志太榛原圏域こどもプロジェクト

○苦情、事故報告 苦情 なし 事故 なし



○評価

- ① 障害により不安定になりがちな日常生活に対し、手帳取得、年金受給、補装具の給付や日常生活用具の購入などの支援をする事により、安定した生活を送ることができたと評価をいただきました。
- ② 関連事業所との連携の中で「本人・家族と事業所の関係などで連絡が取りやすく、スムーズになった」と作業所からも評価をいただきました。
- ③ 定期的な訪問や受診同行の支援を行うことで、将来の生活を見据えた本人・家族の思いに寄り添うことができ、精神的な安定がはかられたと評価を頂きました。
- ④ 自立支援協議会の運営や支援者による連絡会に参加することで、関係機関各所と連携を取りながら、切れ目のない支援を目的として協同することができています。
- ⑤ 電話が転送できることで、夜間や休日の電話連絡対応もできるようになりました。
- ⑥ 「生活支援センターつばさ」の名前が周知され、窓口の相談が増えました。
- ⑦ 医療との連携が取れ、スムーズな受診や退院後の調整等が取れるようになりました。
- ⑧ 他市町の事業所及び行政との連携が取れ、利用者の支援がスムーズにできるようになりました。
- ⑨ 計画相談と委託相談の担当をはっきりと分け困難ケースを複数の職員で対応できるようになりました。

○相談支援業務について

総合相談月別件数

(1) 指定特定(障害者総合支援法による計画作成に基づく相談内容)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
訪問	58	61	71	77	64	44	85	64	57	61	79	62	783
来所	7	7	15	12	12	14	7	11	25	12	9	20	151
同行	7	8	7	5	3	4	10	2	10	4	6	12	78
電話	52	62	63	94	88	73	82	137	93	69	64	60	937
E-mail	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	5	0	8
個別支援会議	18	4	4	2	7	6	8	4	6	7	3	8	77
関係機関	15	22	8	4	8	12	8	8	8	11	11	12	127
代行	0	1	0	1	1	2	0	0	0	0	0	2	7
その他	0	0	1	2	0	0	0	0	1	0	0	0	4
合計	158	165	169	198	183	155	200	226	200	165	177	176	2,172

(2) 委託(市より委託された相談支援事業における相談内容)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
訪問	12	15	21	15	13	22	9	20	6	11	3	11	158
来所	14	13	20	19	16	21	20	17	24	18	15	17	214
同行	7	11	16	4	9	5	4	10	17	5	3	6	97
電話	94	136	94	81	101	94	113	108	104	51	39	48	1,063
E-mail	0	0	0	0	0	2	17	14	10	5	5	0	53
個別支援会議	5	7	3	4	9	4	2	3	0	4	2	10	53
関係機関	13	41	25	39	53	48	35	45	22	15	23	18	377
代行	1	4	3	5	0	5	3	3	0	2	0	1	27
その他	0	1	0	0	2	1	0	0	1	0	1	0	6
合計	146	228	182	167	203	202	203	220	184	111	91	111	2,048

## 相談内容

### (1) 指定特定(障害者総合支援法による計画作成に基づく相談内容)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
福祉サービスの利用等	128	104	128	160	126	113	148	161	144	139	137	121	1,609
障害や病状の理解	4	8	3	3	1	3	3	1	2	1	0	3	32
健康・医療	14	39	18	17	33	21	22	34	35	9	12	24	278
不安の解消・情緒安定	3	6	10	7	4	3	9	10	5	7	11	12	87
保育・教育	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
家族関係・人間関係	4	3	4	1	4	0	2	4	1	3	1	6	33
家計・経済	2	0	4	0	2	7	1	6	5	2	5	7	41
生活技術	0	3	1	6	8	8	7	6	5	3	2	1	50
就労	2	1	3	0	1	0	5	4	0	1	5	2	24
社会参加・余暇活動	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
権利擁護	1	0	1	0	3	0	1	0	2	0	0	0	8
その他	0	0	0	4	1	0	2	0	1	0	4	0	12
合計	158	165	172	198	184	155	200	226	200	165	177	176	2,176

### (2) 委託(市より委託された相談支援事業における相談内容)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
福祉サービスの利用等	37	23	22	53	52	62	42	39	19	19	24	23	415
障害や病状の理解	5	7	10	10	21	16	16	15	36	19	5	8	168
健康・医療	39	54	33	30	55	29	35	36	35	18	6	12	382
不安の解消・情緒安定	42	107	86	13	34	34	54	57	48	29	22	23	549
保育・教育	0	0	0	0	0	0	3	0	1	0	0	1	5
家族関係・人間関係	2	4	10	15	12	20	6	12	7	6	6	6	106
家計・経済	6	1	7	5	10	4	1	9	12	5	3	10	73
生活技術	1	5	5	4	2	8	12	7	12	1	4	9	70
就労	7	12	6	20	11	15	10	24	10	12	13	17	157
社会参加・余暇活動	1	2	1	0	0	1	2	4	0	0	2	0	13
権利擁護	4	14	5	17	5	7	16	21	6	2	8	3	108
その他	2	1	1	0	2	6	9	0	0	1	0	0	22
合計	146	230	186	167	204	202	206	224	186	112	93	112	2,068

## 相談支援実人員

### (1) 指定特定(障害者総合支援法による計画作成に基づく相談内容)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規	2	1	1	0	3	2	0	0	0	0	0	0	9
継続	75	61	71	68	65	60	76	67	65	71	70	73	822
合計	77	62	72	68	68	62	76	67	65	71	70	73	831

### (2) 委託(市より委託された相談支援事業における相談内容)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規	4	1	3	7	5	3	2	2	1	2	1	6	37
継続	28	32	32	38	39	42	38	39	36	35	31	37	427
合計	32	33	35	45	44	45	40	41	37	37	32	43	464

## 平成30年度事業報告

○事業所名 生きがいデイあしたか(受託事業) ※センターは指定管理施設

○決算額(資金収支計算書) 単位(円)

	生きがいデイあしたか
事業活動収入	14,778,640
事業活動支出	14,891,700
差 額	△ 113,060

○事業について(内容・方針・目標等)

「笑顔てんこもり」を基本目標にして、各教室の参加者が楽しく介護予防でき、地域の中でいつまでも元気に自立した生活が送れるよう、心身ともに元気な高齢者を目指して活動を提供しています。教室では常に笑いがあふれ、意欲的な気持ちになるように活動を工夫し、職員も協力し合い、新たな趣味活動や仲間作り等が行えるようにしています。

短時間デイサービス『あしたか健康教室』(定員 午前・午後各12名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数	14	13.5	15	14	16.5	13	15.5	15	13	13	13	28	183.5
延べ人数	262	257	292	271	291	246	288	287	234	223	237	256	3,144
一日平均	18.7	19.0	19.5	19.4	17.6	18.9	18.6	19.1	18	17.2	18.2	9.1	17.1
減免者延数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
登録者数	72	74	75	75	73	72	69	72	70	69	70	71	
(事業対象者)	64	65	67	68	65	60	57	61	61	60	60	60	
(要支援1)	6	7	6	6	6	9	9	8	7	7	8	9	
(要支援2)	2	2	2	1	2	3	3	3	2	2	2	2	

※7教室(月曜日・木曜日・金曜日の午前・午後)と(水曜日の午前)を実施しています。

介護予防普及啓発事業 ①修了者支援事業『あじさいクラブ』(定員15名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	47
延べ人数	32	40	37	33	34	32	35	35	32	38	39	41	428
一日平均	10.7	10.0	9.3	8.3	8.5	8.0	8.8	8.8	8	9.5	9.8	10.3	9.1
減免者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※4月から、(1・3火曜日)(2・4火曜日)の2グループで実施しています。

介護予防普及啓発事業 ②介護予防のポイント啓発事業『やってみっか塾』

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数	0	0	1	0	2	1	2	1	1	0	1	1	10
延べ人数	0	0	4	0	12	6	26	8	16	0	6	10	88

介護予防普及啓発事業 ③地域での高齢者の居場所・出番づくり支援事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数	1	1	1	2	1	1	0	0	0	0	0	0	7
延べ人数	12	0	6	7	0	0	0	0	0	0	0	0	25

※5月、8月、9月の1回は、地域支え合い活動協議体『歩いて出かけられる集いの場』部会に参加

相良いきいきセンター利用状況（活動室、学習室、調理室、あしたか室）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数	20	21	21	21	23	18	21	21	19	19	19	20	243
延べ人数	526	582	562	534	549	571	613	573	506	505	511	573	6,605
一日平均	26.3	27.7	26.8	25.4	23.9	31.7	29.2	27.3	26.6	26.6	26.9	28.7	27.2

○防災対策

・4月・9月・12月の年3回、避難訓練を計画し、4月、9月、12月と3回実施できた。

【地域の津波タワーまで歩いたり、防災ずきんやライフジャケットの着用体験など】

・避難訓練のみでなく、防災に関するゲームや講話を行い、啓発を促している。

○苦情、事故報告

- ・介護事故 なし
- ・交通事故 なし
- ・苦情 なし

○参加事業(家族・地域・アンケート調査等)

- ・アンケート調査は11月に実施し、調査結果を参加者及びご家族に報告した。
- ・さがら作業所の牛乳パック集め
- ・エコキャップや古切手集め(「ひだまりの会」がいきいきセンターでキャップの選別や古切手の整理を行ってくれている)
- ・風水害や地震被害への募金・赤い羽根共同募金への協力
- ・3教室の参加者が手作り雑巾を持って市内3か所の保育園やこども園に出かけ、卒園児に手作り雑巾プレゼントをしたり、交流した。

○実習生やボランティアの受入

- ・見学者 施設見学・教室見学やお試しの方
- ・実習 静岡福祉大生実習・・・8月27日、29日、9月7日の3日間
- ・ボランティア 太極拳(5月)。メイク体験(10月)。

○職場環境の整備

- ・施設敷地内の草取りや地域の清掃に合わせた側溝清掃など
- ・庭の花の植え替え(季節に合わせて)

## ○職員体制

- ・職員数 4名(介護福祉士3名、看護師1名)
- ・兼務職員 2名(地域福祉課との兼務)
- ・シルバー人材センター派遣 1名(ヘルパー2級)

## ○職員研修

- ・内部研修 レク活動、各種体操などの実践について  
事例検討会  
歩行補助具の正しい使い方  
職員研修「個人情報の管理」  
職員研修「交通事故予防啓発研修」  
レク講習会「これからのレクリエーション」
- ・外部研修 地域支え合い活動協議体連絡会及び地域支え合い活動協議体(相良地区)への参加  
コグニサイズ～認知症予防の取り組み  
口腔機能向上講演会

## ○現状と課題

- ・総合事業の短時間デイについては、現在の登録者は71名で、その内、事業対象者が60名、要支援1の方が9名、要支援2の方が2名で、うち、サービス計画のもと、週2回利用の方が2名います。年々、参加者の高齢化が目立ち(平均年齢86歳)、参加途中で長時間デイに変更されたり、介護保険に移行された方もいて、1教室12名の参加者数を維持していく事は困難です。また、昨年と比べ、要支援1・要支援2の方が増えており、体の動きの悪い方や認知面で気になる方も増えているのが現状です。
- ・一般介護予防事業の通所型フォロー事業としての『あじさいクラブ』は、4月には2グループ23名でしたが、亡くなった方や介護保険への移行等で3名が終了となり、9月以降に新規で6名加わったので、現在26名の方が月2回の教室を張り合いに楽しんで参加してくれています。
- ・介護予防のポイント啓発事業については、サロンや老人会、自主クラブ等、高齢者の集まる所へ出向き、介護予防の啓発を行う事業で、社協のサロン、ボランティア担当者等と連携し、少しでも多くの地区において、高齢者の介護予防の啓発を続けていきたいと思えます。
- ・地域での高齢者の居場所・出番づくり支援事業については、地域の把握や必要性を十分把握した上で企画する為、社協の地域担当者や包括、高齢者福祉課等と協議しながら、介護予防を取り入れた居場所づくり支援を行っています。社協の「地域支え合い協議体」の『歩いて出かけられる集いの場部会』に事業所として参加し、相良地区に1ヶ所、部会の居場所として、『ちよっくら処～風』を立ち上げ、H30年2月からスタートし、現在は支援スタッフ4名とボランティアの方のみで実施できるようになりました。居場所の立ち上げには時間がかかりますが、今後も地域のニーズに合わせて、新たな居場所や出番作りを企画支援していきたいと思えます。
- ・相良いきいきセンター利用状況については、相良公民館や老人会館が使用できなくなった為に、自主クラブの利用が増えた事、新規の自主クラブが増えた事等で、利用者の延べ人数は昨年より増加しています。

## 平成30年度事業報告

○事業名 相良総合センター管理業務事業

○事業内容

施設管理業務、貸館業務、設備保守業務、嘱託員業務、消防業務 他

○課題

施設の設備等の不具合などが少しずつでてきているため、できる範囲内で修繕等を行っているが高額設備については、計画的に修繕していく必要がある。また、施設利用団体の取り扱いについても市内公共施設と同じ扱いではない団体もあることから統一した方がスムーズな施設運営ができる。

○施設利用状況

ホール(ホール、舞台のみ、楽屋)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
回数	53	57	52	63	80	59	364
利用者数	1,567	1,850	1,200	1,306	681	2,848	9,452

区分	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
回数	88	76	68	51	78	119	844
利用者数	4,440	2,446	2,164	1,605	6,282	4,760	31,149

各部屋 (福祉団体活動室、ボランティア活動室、会議室、和室、エントランスホール、ガレリア・ホワイエ、イベント広場)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
回数	328	224	278	263	323	248	1,664
利用者数	1,957	1,288	1,789	1,975	3,306	1,860	12,175

区分	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
回数	298	300	196	237	295	316	3,306
利用者数	1,581	2,170	1,298	2,085	2,102	2,989	24,400

○防災訓練

実施日：10月30日(火) 参加者：40名

内容：子育て支援センターに集まる親子を対象に、身近にある消火器を使用して訓練を実施する。

実施日：2月25日(月) 参加者：72名

内容：講師に災害ボランティアコーディネーターをお招きし、福祉施設利用者の方を対象に避難所生活を学び体験してもらい、災害時の行動を確認した。

○評価

相良総合センターの利用(特に各部屋)が年々増えている。管理人の出勤日数が増えたため、4人体制とし負担にならない範囲で回す事が出来た。修繕は予算内で行うことが出来た。

○その他(市への要望等)

相良総合センター使用料の納付書を牧之原市役所で作成してもらっているが、「届かない」との問い合わせが多くあるため、早急に対応してほしい。

高額設備(ロールカーテン等)修繕について、予算をつけて直してほしい。